

くものいと No.36

KU MO NO I TO

2004 December 5

関西クモ研究会  
大阪府茨木市

## くものいと

No. 36, Dec. 2004

- |   |      |
|---|------|
| 1 喜界島でハイイロゴケグモを発見   | 加村隆英 |
| 2 ゴミグモに付く寄生蜂の幼虫の寄生状況について  | 船曳和代 |
| 4 庭で発見されたワスレナグモ—第2報   | 田中穂積 |
| 6 国際クモ学会議 (ベルギー) に出席して  | 小野展嗣 |
| 12 第1回武田尾採集会報告  | 清水裕行 |
| 21 採集会の感想   | 高章 浩 |
| 22 チュウガタコガネグモの網にトカゲ   | 船曳和代 |
| <b>クモリスト</b>  |      |
| 23 山形県のクモ類目録  | 吉田 哉 |
| <b>同定指南</b>   |      |
| 29 同定指南Ⅹ コモリグモ Lycosidae (その3) <i>Tricca</i> と <i>Arctosa</i> 属 | 田中穂積 |
| <b>海外の研究トレンド</b>  |      |
| 34 コモリグモの雌はおなじみの雄が好き  | 柘元敏也 |
| <b>新刊紹介</b>   |      |
| 36 「ピアノのためのポエジー クモの糸のはしご」(中島はる作曲)                               | 加村隆英 |
| 37 和歌山県海南市のクモ相撲   | 池田勇介 |
| 38 関西クモ研究会 2003 年度会計報告  |      |
| 39 関西クモ研究会会費納入のお願い  |      |
| 40 編集後記   |      |



## 喜界島でハイイロゴケグモを発見

加村隆英

今年(2004年)の8月に喜界島を訪れた際に、現地でハイイロゴケグモを採集したので、報告する。喜界島は奄美大島の東に位置する周囲50km足らずの島で、この島ひとつで鹿児島県大島郡喜界町を形成する。

ハイイロゴケグモは、毒性が強いことで知られるゴケグモ類の一種で、熱帯を中心に世界中に分布しており、10年近く前から日本国内の各地で生息が確認されている。現在までに、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、福岡県、沖縄県で発見されているが、鹿児島県からは報告がなかった。

今回の発見のデータは次のとおりである。

場所：喜界島の浦原(島の南部の集落)の北の高台

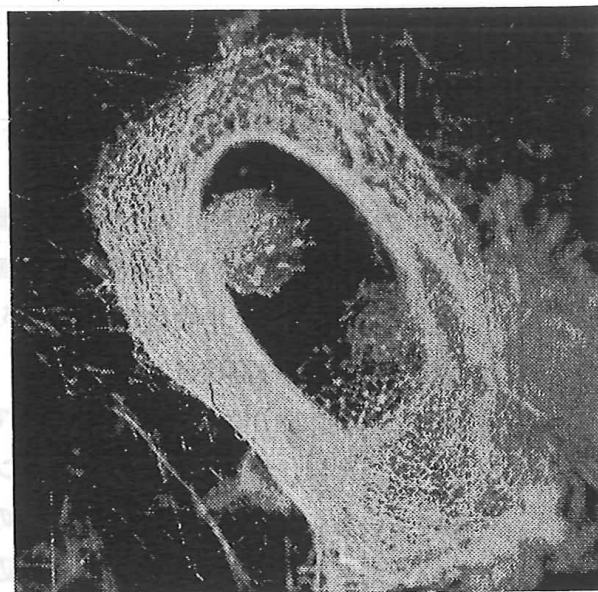
採集日：2004年8月4日

採集者：加村隆英

最近植栽されたと思われる樹木の支柱の下側に造網していた。網の一部に、糸が密に編まれた繭状の部分があり、その中に1個の卵囊があった。そのさらに奥に雌雄の成体1匹ずつが潜んでいた。

この件については、後日、喜界町役場に報告した。同役場からは、住民に周知するための手立てを講じるとの返事もらった。なお、同役場によると、クモが造網していた樹木は、沖縄県から持ち込まれたものであるとのことである。沖縄県から喜界島への物資の持ち込みは多いとのことなので、今回発見された個体が沖縄県から移入したものである可能性は高いと思われる。

なお、この情報は、南海日日新聞に掲載された。その内容は、同新聞社のインターネット版(<http://www.nankainn.com/kiji/back04-1002-1008.htm>)で見ることができる。



喜界島で採集されたハイイロゴケグモの雌(左)と卵囊(上右)

## ゴミグモに付く寄生蜂の幼虫の寄生状況について

船曳和代

私の友人の舛元夫妻はゴミグモに寄生する寄生蜂の終齢幼虫が、ゴミグモの張る網の形にどのような影響を与えるか調べておられます。その影響でわたしも野外に出るとついゴミグモに目が行き、寄生蜂の幼虫がついているかをみてしまいます。そのうちにどれくらいの確率で寄生されているのか、寄生状況がゴミグモの数に何らかの影響を与えているのか、などに関心を持ちました。そこでとりあえず今年は姫路近辺のよく行く所で寄生状況を調べてみることにしました。その結果を以下に報告します。来年も同じところで調べてみたいと思います。

場 所	2004 年月日	寄生無	寄 生 有			合 計	寄生率 (%)
			右肩	左肩	尻		
姫路市太市	3月29日	39	6		2	47	17
姫路市広峰山	4月1日	81	20	18	4	123	34
姫路市書写(東洋高校北)	4月5日	9	0	9	1	19	53
飾磨郡夢前町山富	4月6日	10	5	1	0	16	38
姫路市増位山	4月6日	80	37	37	2	156	49
姫路市刀出	4月7日	55	12	9	5	81	32
飾磨郡夢前町置本	4月8日	135	14	7	0	161	13
宍粟郡安富町関	4月9日	17	0	0	0	17	0
御津町室津	4月11日	62	0	0	0	62	0
姫路市書写(工芸館北)	4月13日	23	0	2	0	25	8

## \* 調査地はどのような所か

## ● 姫路市太市

姫路市が「自然観察の森」として整備しているところ。コンクリートで舗装された駐車場周辺と、それに続く観察コースの一部を調べた。コースは未舗装であるが定期的に最小限の手入れはされている。散歩する人が多い。ゴミグモは観察コースより駐車場周辺に多かった。

## ● 姫路市広峰山

広峰神社の参道、約300mの両側を調べた。ここは広峰山の中腹あたりで、道はきちんとコンクリートで舗装され、道幅も広く車が対面通行できる。道の両側には木や草が茂り、竹林もある。さらに少し上には宿泊施設があり結構車が通る。

## ● 姫路市書写(東洋高校北)

書写山の南側の山裾。10年余り前までは自然環境豊かなところで、各種のトリノフンダマシがいた。今は山陽自動車道が通りトンネルの出入り口になっているため四六時中轟音が鳴り響いている。木や草は自動車道建設のため広範囲に切り取られ、木立に埋もれるように建てていた寺も新築された。この寺の周辺の道の両側を調べた。

## ● 飾磨郡夢前町山富

幹線道路から約400m谷川沿いに山に入ったところを調べた。10年余りにここまでは谷川の改修工事が行われ、未舗装だが車で入れる。改修工事で川沿いの木が切られてしまった

ため広い範囲で草地になっている。周囲を山に囲まれた草地といったところでカエデが10本ほど植樹されている。ここから尾根づたいに1時間あまりで広峰山にいける。去年はゴミグモが非常に多かったが今年は少なかった。

● 姫路市増位山

10数年前に山を切り開いて中腹まで車道がつけられた。上り詰めたところには広場と広い駐車場がつくられている。予定ではこの奥に播磨空港ができ道ももっと先まで伸びるはずであった。広場のあたりには以前「蛇ヶ池」という、木々に囲まれた素晴らしい湿地帯があった。今残っているのは水溜りのような池だけである。駐車場周辺とそこから下りながら200mほどの道の両側を調べた。

● 姫路市刀出

書写山の西側の山裾にあたる。以前は古い平屋建ての市営や県営の住宅がびっしりと階段状に並んでいた。それが何年か前から立ち退きが始まり、空き家になったところから更地にされ、歯抜けのような状態になっている。道の両側や空き地は草が茂っているが今年3月までは住んでいる人もいて最低限度人の手が入っていた。階段状につけられた道の両側を調べた。

● 夢前町置本

山間を抜ける舗装された道路の両側。数年前に道の南側に大きな保養施設が建てられた。このとき特に建物の前少しの間だけが歩道つきの広い道になった。この区間を調べた。ゴミグモはなぜか道の南側に多く、156頭のうち144頭が南側にいた。また南側でも歩道に等間隔に植えられた楠木の下に添え木に多かった。

● 宍粟郡安富町

安富ダムの管理事務所とそれから少し入ったところにある駐車場周辺を調べた。舗装されたきれいな道が通っているが、周囲を深い山に囲まれている。人家は少し離れたところにある。

● 御津町室津

釣り人のために設けられたと思われる小さな駐車場周辺と、その前後の道の両側を調べた。道は舗装されているが狭く、片方は海で片側は丘になっていて草や低木が茂っている。駐車場は未舗装でイブキなどが植えられている。トイレもあってその付近に特に多かった。

● 姫路市書写(工芸館北)

書写山の東側の山裾に沿ってつけられた土手の両側約200mを調べた。土手の片側は夢前川の河川敷で竹林になっている。もう片側も迫ってくる山地との間にこの川から取水した水が流れる小川がある。

また寄生蜂の幼虫がいつ頃蛹になるのか、成育状況について興味を持ち、5月12日に増位山で少し範囲を拡大して調べてみた。すると幼虫がまだ小さいものが7、大きいゴミグモがまだ正常な網を張っているもの6、特別大きくなって正常な網が無いもの1、すでに繭をつくって蛹になっているもの75であった。4月の20日にはすでに蛹になったものを見つけているので、姫路付近では大半の幼虫は、4月の終わりから5月の中頃にかけて蛹になるものと思われる。

## 庭で発見されたワスレナグモ —— 第2報 ——

田中穂積

先の号で、庭で発見されたワスレナグモについて、第1報を報告した。その後、どのような行動を取るのかとても興味を持っていた。そうした中で、以下に述べる様な行動を観察出来たので、ここに第2報として報告したい。

2004年3月下旬

庭で巣穴を捜していると、すでに直径2mm程度の穴が形成されているのを発見(個体Aとする)。残念ながら、いつ頃から穴が開いていたのか不明。

第1報で、穴の入口を昼間は閉じているかもしれないとしたが、今日の観察より、昼間も開けたままであるのが確認できた。ただし、クモは入口より奥へ1cmほど入ったあたりに糸で薄く膜を張り、侵入者が更に奥へ入れないようにしている。

また、第1報で述べた、秋に穴を閉じた個体(個体Bとする)の穴は閉じたままであった。

2004年4月1日

プラスチック容器で飼育している2個体は表面に穴を開く様子が全然見られないので(刺激を与えるのが気になりながら)、周りの土を注意深く取り除いていくと、数cm掘ったあたりから、ジグモの巣のような周りを糸でつづった巣が現れた。その巣に沿って土を更に掘り下げていく。容器の底で、1個体(個体Cとする)は元気に動いていたので、生きていることを確認し、再び周りの土をかぶせる。これより、個体Bも穴の底で生きていた可能性が出てきた。もう1個体は、残念ながら底で腐って土色のどろどろの溶液が見られた。死んでそんなに日が経っていないのかも知れない。

2004年4月7日

個体Aは、3月下旬の発見以後、特に変わった様子はない。また、個体Bについてもまだ何の変化も見られない。

2004年4月15日

夜、個体Bの巣穴のあった辺りを電燈で照らしていると、なんと、直径約5mmもある穴の存在を確認。やはり、ここで昨年の秋に穴を閉じた後、穴の底で生存し、春に表面に出て来たことになる。ただ、開いた穴の位置は昨年と違った方向であったため、気づくのに日を要したかもしれない(もう少し前に、出てきていたかもしれない)。とにかく、自然状態で、同じ場所で冬を越したことを確認出来たのは、大きな収穫だ。また、この日、別の場所で直径2mm程度の穴も発見。この辺りは、毎日調査していた範囲内であることから、正確ではないが、昨夜、観察後に、クモが穴を開けた可能性がある。この個体をDとする。

4月17日

プラスチック容器で飼育中の個体Cだが、この時期になっても表面に穴らしきものを作らないので、

もう一度土を掘って調べて見た。残念ながら条件的に少し乾燥した状態になっていたこともあり、底で死んでいるのを確認。ここで本個体の観察は終了。

4月19日

個体Aのあたりを観察していると、なんと、直径2mm程度の穴を3つ発見(個体E,F,G)。明らかに17日には無かったのを確かめているので、昨日の時点で作られたものである。やはり、この時期まで土の中で潜っていた個体が次々と表面に穴を開くものと考えられる。

4月30日

今日もいつもの様に穴のあたりを見ていると、なんと個体Aの近くに直径5mm程度もある穴を4つ(個体H,I,J,K)を発見。昨日まで気がつかなかったと思うのだけれど(自信はない)、こんな時期にも穴を開けて出てくる個体があるのか?これに関しては不明。

(補足:図1によると、個体A,H,Iは、近接して穴があるので、1個体の巣に3個体の出口があるのかもしれないとも思ったが、同時刻に穴の入口に3個体を確認しているので、それぞれ別個体が作った穴である)。

その後5月に入って、かなりの大雨で表面の穴の入口がふさがれた後、数日そのまま開かなかったことがあった。その中には現在(6月の下旬)まで開かない場合も観察されている(個体Bもその1例である)。

春期における本種の行動の報告をここで一度終わりにする。今回の観察から、観察例が少ないので感覚的なものだけれども、本種は(も)、かなり長期間餌を得られなくても、生存出来るのではないかと考える。だれか、本格的に調査されることを希望したい。

ここで今回登場した個体をまとめておく。

個体A:3月下旬、穴を発見(直径2mm程度)

個体B:4月15日、穴を発見(直径約5mm)(昨年穴を形成し、秋に穴を閉じた個体)

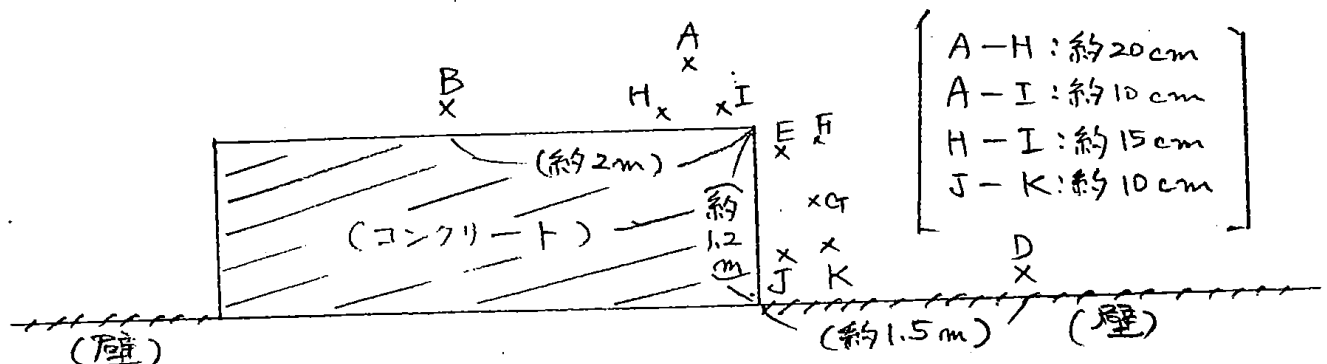
個体C:プラスチック容器内での個体(4月17日、底ですでに死亡)

個体D:4月15日、穴を発見(直径約1mm)

個体E、F、G:4月19日、穴を発見(いずれも直径2mm程度)

個体H、I、J、K:4月30日、穴を発見(いずれも直径約5mm)

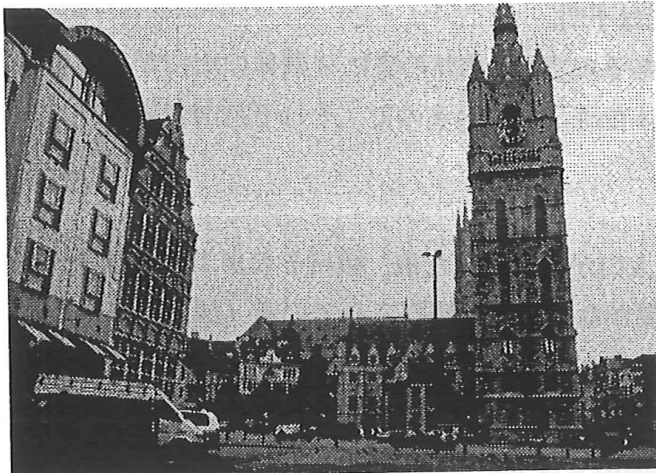
最後にこれらの個体の庭での位置を図1に示す。



## 国際クモ学会議 (ベルギー) に出席して

小野展嗣 (国立科学博物館)

本年(2004年)8月2日から7日にかけてベルギーで開催された第16回国際クモ学会議に出席した。大会は、ゲント市のゲント大学で約250名が参加して行なわれた。ゲントは書類にGhentまたはGentと綴られているが、日本語の地図帳によっては「ヘント」市となっている。変だなと思って、バスに乗り合わせた学生さんにどう言うのか聞いてみたら、市内で皆が喋っている「ドイツ語のように聞こえる言葉」はオランダ語であることがわかった。フラマン語(フレミッシュ)ではないのか?とおもったら、ベルギーで話されるオランダ語のことをフラマン語というのだそうだ。それで、町の名はゲトへの間のような発音である。



ゲント市内 宿舎のホテルの前で写す

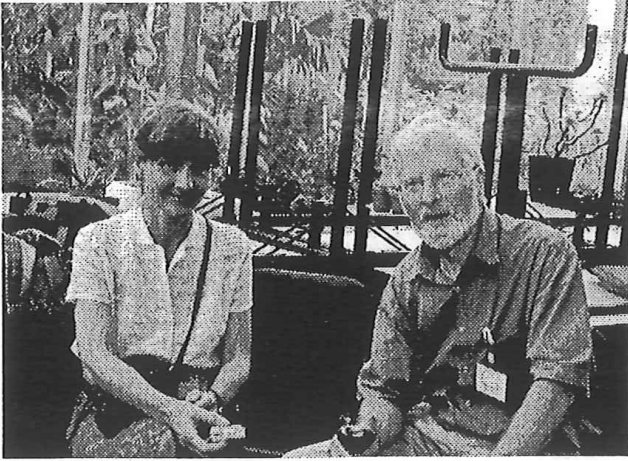
ブリュッセルから電車で1時間くらいの距離にあるのだが、フランス語は一般的でない。言語的な境界が電車から見えた風景のどこかにあったはずだ。このあたりは、かの有名な童話「フランダースの犬」のフランドル地方(州)で、その州都がゲントである。しかし、フランドル Flandre はフランス語で、オランダ語ではフランダール Vlaanderen というのだそうだ。日本でなじみのあるフランダース Flanders はじつは英語で、これは童話の影響かもしれない(作者はイギリス人)。日本人は州や町をどう呼んだらよいのか。ゲント

Ghentは英語で、ヘントGentはフラマン語、そしてフランス語ではガンGandなのである。だから本来は、フランダールのヘント、フランドルのガン、フランダースのゲント、のどれかでなければいけない。それはさておき私はアントワープの教会で最後凍え死んでしまう少年と犬のパトラッシュの物語がかわいそうで苦手である。この物語は日本では人気だが現地ではまったく知られていない。

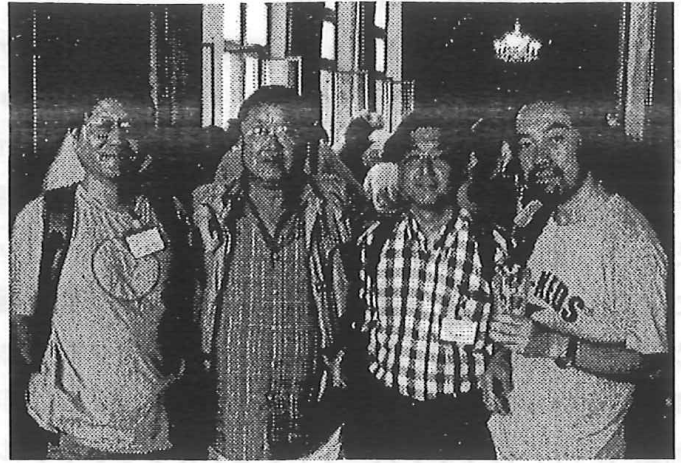
ゲント/ヘント/ガンは、州都にしては人口20数万人ほどの小さいそして清潔な感じの大学都市である。大学の建物が町全体に広がっていて、とにかく歩かないといけない。昼食を大学の食堂で食べるために20分は歩かなければならない。なるほど、事前に自転車のレンタルをすすめられたわけがわかった。会場の建物は植物園の隣にあって、毎日ホテルから市電で近くまで行き、森の中を歩いて抜けていくのが楽しかった。とにかく、日本人からすると、すべてに案内がわるく、なかなか目的地に行き着けない。初日の前の日の夕、registrationのために会場に向かううちに植物園の中で迷子になって困っていたら、マルテンス夫妻(P.7左上)と偶然にもバッタリ出会った。マインツ大学の恩師であり、今回もっとも会いたかった人とのいきなりの出会い(4年ぶり)に驚かされた。1977年以来30年ぶりに会った人もいる。オールドの面々、若手の面々。とくにオットー・クラウス先生は第1回の大会からずっと出ているというのはすごい。生き字引的な存在である。むこうで会った大先生や友だちのことを書き出したらきりがなくなるので、与太話はまたの機会にする。

日本からは田中一裕さん、鶴崎展巨さん、岡田珠美さん、榎元敏也ご夫妻、小野の計6名(民族的にはドイツのハウプトさんの奥様を入れると7名)が出席した。アジアからはほかに、韓国(金





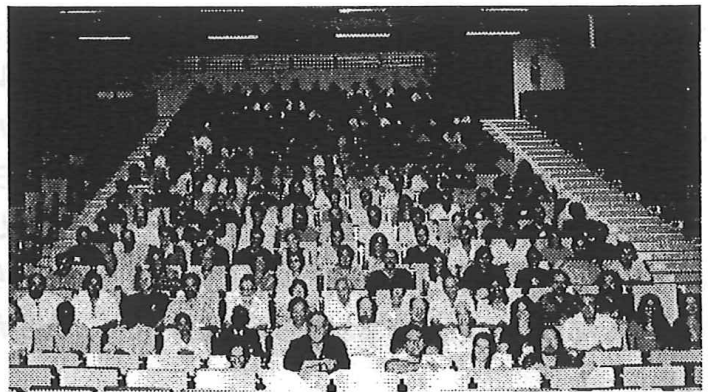
Jochen and Beate Martens

左から鶴崎、金、小野、田中の面々  
(Yoo Jung Sun さん写す)

さんご夫妻, Yoo Jung Sun さん), 台湾 (Tso I-Min さん), シンガポール (Joseph Koh さんご夫妻, Daiqin Li さん), インド (B.H. Patel さんら) から参加があった. 中国からは一人も参加がなかったのはやや意外. 講演が約 150, ポスターが約 100 という数の多さでおわかりのように, 参加した人のほとんどがなんらかの発表をしていることがわかる. 参加して自分をアピールすることに意義がある. ここが、喋り手と聞き手がはっきりわかれている国内での学会とすこし違うところかもしれない. 口頭発表は月・火・木・金の 4 日間 3 会場にわかれてびっしりと組まれていて, 単純計算でも 3 分の 2 の講演は聞けなかったことになる. スプリング綴じの要旨集の厚さが 2 センチメートルもある.

水曜日には (全体の) エクスカーション, また大会の後にもポスト・ kongress・エクスカーションの予定が組まれていた (後の方には私は参加しなかったが, 出た人の話ではあまりおもしろくなかった, とのこと). 水曜日のエクスカーションはまあ, バスを使ったワンデーツアーみたいなもので午前中は市内見物組と湿地散策組 (環境保護の講義付) にわかれたが, 午後は全体で運河の舟下りとなった. 出発前には寒いという情報ばかりで重装備で出かけたのに, 連日の夏らしい晴天. 舟下りは暑いというえに逃げ道がないので, かなりの難行になって, へばった人も出た. 閉鎖的環境なので, いろいろな人とじっくりと話をすることができた. その後, とある村で村長さんの歓迎の飲み物 (ビール) が出たり, 川沿いの小道で 1 時間程度の採集も許されたり, と内容のある 1 日になった. 私はイナズマクサグモを何頭か採集した以外は収穫無し, 田中さんはオオヒメグモがいなくて嘆いていた. 夏時間のヨーロッパは昼間がじつに長い. 私は最終日の夜の kongress・ディナーをさぼったので, それがどうであったかはわからないが, 出なくて正解でしたと言われた. 最近では日本でもベルギービールが流行っていて, 東京でもまったくおなじヒューガーデンが飲める (ただしけっこうよい値段). 私はピルス党であったが, やはりその土地ではその土地に合ったものが最善.

大会の様子はおそらくほかの方がアクタ・アラクノロギカに書くだらうと思うので, ここでは, この国際会議そのものの歴史についてすこしお話ししたい.



大会の記念写真 (2004 年 8 月 30 日).

私は遅刻して写っていない

国際クモ学会議は、1959年（昭和34年）、ゼンケンベルク博物館（ドイツ・フランクフルト市）の研究者だったハーマン・ヴィーレ（1884-1966）の発案によるものといわれている（Kraus, 1999）。ヴィーレ Wiehle は著書にサラグモ類の大冊があるのでご存知の方もあろう。日本でも八木沼先生の保育社の図鑑が出る前の年であるから、戦後の復興の歩みが着実になってきたころだ。ただ、そのときは、全世界を対象としたものではなく、ヨーロッパの国々のクモ学者の連絡を取り合おうということだった。そして、翌1960年には、ボンで第1回の会議が、そして1961年にはザールブリュッケンで第2回の会議が開かれた。これは欧州クモ学会議であったが、同時に国際クモ学会議の第1回、第2回ということになっている。それからしばらく間をおいて、1964年には、フランス国立自然史博物館（パリ）のマックス・ヴァションがフランクフルトを訪れて、真の国際学会の実現に向けて話し合ったという。そしてそれは第二次大戦の仇同士が握手をする形で成立した。

ヴァション先生（故人）はドイツ語が達者である。でも、戦争中はレジスタンスとしてドイツ軍と戦っていたのだそう。背広の似合うものすごくダンディーな先生で、私はかけだしのころ、たいへんお世話になった。

1965年にフランクフルトで行なわれた会議はまだ欧州限定であったが、1968年のパリの会議で、正式に国際クモ学会議となり、世界中の研究者に声かけられた。C I D Aの誕生である。「シダ」という愛称で親しまれたこの学会組織は正式にはフランス語で Centre International de Documentation Arachnologique という。直訳すると「国際クモ学資料情報センター」であるが、今考えると、非常に先を読んだ命名だったと思う。本部、事務局はパリに置かれることになった。フランス人は国際組織の本部を担うことにこだわりをもつ。

こういう経緯があるので、国際会議のほうが、学会の成立より3回先行しているのである（表1）。そして、欧州クモ学会議のほうもなくなったわけではなく、国際会議が行なわれない年に開催されるということになった。昨年（2003年）のサンクト・ペテルブルグ（ロシア）の大会で21回を数えている。

1971年の8月30日から9月4日にかけて、チェコスロバキアのブルノで開催された第5回国際クモ学会議は名実ともに国際会議となった。「プラハの春」と呼ばれたソ連の軍事介入による動乱からそれほど間もない頃である。ブルノはプラハから東南に200kmくらいいったところにある都市で、距離からはむしろオーストリアのウィーンに近い。

当時の国際学会の役員は、名誉会長がボネ、会長がフランスのルジャンドル、庶務幹事がチェコのシラヴィという面々であった。Proceedingsを見ると、大会には、フランス、オランダ、ドイツ、イギリス、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、ベルギー、イタリア、オーストリア、ポーランド、ユーゴスラヴィア、チェコスロバキア、ブルガリア、ルーマニアエストニア、カナダ、米国、アルゼンチン、ブラジル、コンゴ、そして日本の22カ国から約80名が参加している。しかし、フランス、ドイツ、オランダ、イギリスからの参加者が多く、それ以外の各国からは1、2名程度の参加であるので、ほとんどがヨーロッパの主要な国々にの人たちで占められていたといっていよい。知ったようなことを書いているが、これらはあとから本で読んだり、先生から聞いたりした話であって、当時私はまだ高校生だった。

ところで、日本（鈴木正将先生）が参加したのはじつはこのブルノ大会が最初である。鈴木先生はオオナガザトウムシ *Melanopa grandis* Roewer の地理的変異について発表をされている（Suzuki,

1972). 日本にとっては最初の記念すべき大会になったといえよう。

1974年の第6回アムステルダム大会には小松敏宏先生が出席された。参加者は約100人で会を重ねるごとに増していく。小松先生の発表はProceedings (1975)には、Leptonetid spiders of Japanというタイトルと数行のsummaryが載っているだけであるが、これは、印刷が延び延びになったため、小松先生が原稿を取り下げて秋吉台博物館報のほうに投稿されたためである(小松先生が残されたメモによる)。じつはこの論文が小松先生の最後の論文になった。この大会の途中で体調を崩された先生は、その後研究活動がおもうようにできなくなり闘病の末1982年に亡くなられた。

1977年、イギリスのエクセターで開催された第7回大会は、参加した人どうしでは今日でも語られるほど話題の多い大会となった。それ以前の大会でもそのProceedingsを読むと予兆が感じられるのだが、エクセターでは、クモ学が飛躍的に発展したひとつの節目になったといわれている。参加者も28カ国から約180名と多く、日本からも大勢(八木沼健夫先生、西川喜朗さん、本田重義さん、小野夫妻)が参加した。このときのことは、私もつまらないことを書いたが(小野, 1977)、八木沼先生がAtypus 70号にたいへん詳しく書かれている。八木沼先生の記述は正確で、会議の雰囲気がとてもよくわかる文章である。八木沼先生は洞窟のクモについての発表をされてものすごくうけたのだが、Proceedingsにはabstract (Yaginuma, 1978)だけで、本論文は追手門学院大学の紀要(Yaginuma, 1977)で先に印刷された。

その後は、オーストリア・ウィーン(1980)、パナマ・パナマシティ(1983)、スペイン・ハカ(1986)、フィンランド・トルク(1989)、オーストラリア・ブリスベン(1992)、スイス・ジュネーブ(1995)、アメリカ合衆国・シカゴ(1998)、南アフリカ・バドプラス(2001)と回を重ねて、今回のベルギーに至っている。このうち私が出席しているのは、ブリスベン、ジュネーブ、シカゴの3大会である。最近の大会についてはかならずアクタ・アラクノロギカに印象記が載っているようなので、そちらを参照されたい。この間、長く親しまれたシダは、1999年International Society of Arachnology (ISA)と名称を変え、本部もパリから離れた。おそらく、発足以来ずっと裏方の庶務幹事を務めたいまは亡きジャクリーヌ・エアトウ(Prof.)が体調を崩したのも移転の原因になったのではないかとおもう。どうも「イサ」というのはぴんどこない。わたしにとっての国際学会は永久にジャックリーヌのシダであるような気がする。現在では庶務幹事のジェイソン・ダンロップがいるベルリンの自然博物館が本部というべきなのであろう。会長は大会時に選挙が行なわれ、今年から3年間は南アフリカのアンジー・ディッペナー・シェーマン女史が選ばれた。もともとカニグモ科の分類をやっている人で女性会長はアンジーが初めてだろう。ISAの会員は現在68カ国733人で、多いのは米国(168)、ドイツ(81)、英国(33)の順。日本人はわずか17名である。八木沼先生が一生懸命誘って、約40名会員がいた1983年ころがピークでその後ずっと減り続けている。次回の大会(ブラジル)にも大勢参加して欲しい。

以上とりとめもないが、出席している日本人は少ないのであるから、とにかく、こういうことを書いておくのは無駄ではないと今回も感じて、吉田真さんのご依頼をお引き受けした次第だ。機会を下さった吉田さんに御礼申し上げる。

#### 引用文献

Komatsu, T., 1974. Leptonetid spiders in Akiyoshi-dai Plateau. *Bulletin of the Akiyoshi-dai Science*

*Museum*, (10): 17-30.

Komatsu, T., 1975. Leptonetid spiders of Japan. In: Proceedings of the 6th International Arachnological Congress held at the Vrije Universiteit at Amsterdam, p.229. Amsterdam.

Kraus, O., 1999. Historic overview of past Congresses of Arachnology and of the Centre International de Documentation Arachnologique (C.I.D.A.). In: Proceedings of the XIV International Congress of Arachnology and a Symposium on Spider in Agroecosystems held at the Field Museum of Natural History in Chicago, Illinois June 27-July 3, 1998. *The Journal of Arachnology*, 27: 3-6.

小野展嗣, 1979. 北緯 50 度線上報告 (2). *Kishidaia*, (44): 9-13.

Suzuki, S., 1972. Geographical variation in *Melanopa grandis* Roewer of East Asia (Arach., Opiliones). In: *Arachnologorum Congressus Internationalis V*, Proceedings of the Fifth International Congress on Arachnology, Brno 1971, pp. 65-70. Institute of Vertebrate Zoology, Czechoslovak Academy of Sciences, Brno.

八木沼健夫, 1977. 第 7 回国際蜘蛛学会議概況. *Atypus*, (70): 37-40.

Yaginuma, T., 1977. Some Problems in cave spiders of Japan including a description of a new species. *Faculty of Letters Review Otemon Gakuin University*, (11): 305-316, pls. 1-2.

Yaginuma, T., 1978. Some problems in cave spiders. In: *Arachnology, Seventh International Congress, The Proceedings of a Symposium organized jointly by the Zoological Society of London, the Centre International de Documentation Arachnologique and the British Arachnological Society held at the University of Exeter, England on 27 July to 4 August 1977*, 507-509. Academic Press, London and New York.

表 1 国際クモ学会議の歴史

開催年	開催国・都市	備考
第 1 回	1960 ドイツ・ボン	第 1 回欧州クモ学会議として
第 2 回	1961 ドイツ・ザールブリュッケン	第 2 回欧州クモ学会議として
第 3 回	1965 ドイツ・フランクフルト	第 3 回欧州クモ学会議として
第 4 回	1968 フランス・パリ	国際学会としてスタート
第 5 回	1971 チェコスロバキア・ブルノ	
第 6 回	1974 オランダ・アムステルダム	
第 7 回	1977 イギリス・エクセター	
第 8 回	1980 オーストリア・ウィーン	
第 9 回	1983 パナマ・パナマシティー	
第 10 回	1986 スペイン・ハカ	
第 11 回	1989 フィンランド・トゥルク	
第 12 回	1992 オーストラリア・ブリスベン	

- 第13回 1995 スイス・ジュネーブ
  - 第14回 1998 アメリカ合衆国・シカゴ
  - 第15回 2001 南アフリカ・バドプラス
  - 第16回 2004 ベルギー・アントワープ
  - 第17回 2007 ブラジル・サンパウロ
  - 第18回 2010 未定
-

## 第1回武田尾採集会報告

清水裕行

2004年春の関西クモ研究会主催の採集会は兵庫県宝塚市玉瀬(たまぜ)の武庫川北岸で行なわれました。5月30日、JR宝塚線「武田尾」(たけだお)駅前に午前10時集合の予定でした。私は予定の30分ほど前に武田尾駅に降り立ちました。阪神地方には珍しい無人駅の改札を通る間に駅舎内のズグロオニグモが早速目に飛び込んできます。ほかの参加者が集まるまで建造物内外のクモを採集しようとして管ピンを取り出し、数種採ることができました。オオヒメグモ等の網にシロカネイソウロウグモの雌雄成熟個体が多数ついているのが特に目につきました。周りには別のグループのハイカーしかいないので、私が一番乗りと思っておりましたら、外で管ピンを持ってしゃがみ込む少年の姿が見えました。もしやと思って近づくと、案の定、池田勇介君でした。結局、先着は池田さん一家4名(幸二さん・和穂さん・勇介君・亮太君)と村上協三さん、黒田あき・誠母子と誠君のクラスメートの宗石(むねいし)和久君の8名でした。池田さん一家と黒田さん一行はそれぞれ車で来たそうです。我々が駅の壁やらフェンスに取り付いて採集している間に、船曳和代さん、小池牧子!さん、竹川学さん、田中穂積さんが到着しました。竹川さんはこの3月に入会したばかりで、会の行事には今回が初参加です。定刻を少し回ったところで加村隆英さんと西川喜朗さんが改札を出てきて、これで参加者は15名になりました。加村さんは「幹事の2人が遅れて来てお恥ずかしい」と頭をかいていました。通知には「弁当持参のこと」と注記されていました。しかし、「現地に食堂はなくても、駅前にコンビニくらいはあるだろう」と考えたのか、持ってこなかった人が若干名おられました。駅周辺は全くの自然に囲まれたところで、武庫川兩岸に温泉旅館4軒ある以外には人間くさいものは何もありません。自動車道も幹線道路からは外れた林道の終点で、「阪神地方のミニ秘境」といった趣きです。次回に参加される方は御注意ください。なお、「武田尾」というのは温泉の名で、江戸時代にこれを発見した人物に因んだものだそうです。

10時15分頃に駅を離れて武庫川を溯るコースに入りました。すぐにトンネルがありました。これは旧福知山線の名残でこのハイキングコースの名物になっています。この日は明け方からどんよりした空で、「降るかな」と心配していましたが、出発の時にはすっかり晴れ上がり、気温もどんどん上昇してきました。しかし、トンネルの中はひんやりとして、しばしの涼を楽しめました。トンネルの壁は石積みでヒラタグモの住居が目立ちました。トンネルを出ると、川沿いに道が続きます。温泉旅館の周りでも採集したあと、新線の下のハイキングコースを30分ほど行くと左手に河原へ降りる道が見えました。河原では採集したり昼食をとったり歓談したりで2時間ほど過ごしました。休憩の後には、もと来た道に戻って武田尾駅前で解散しました。

改めて今回の参加者を挙げると、池田幸二・和穂・勇介・亮太、村上協三、黒田あき・誠、宗石和久、船曳和代、小池牧子、竹川学、田中穂積、加村隆英、西川喜朗、清水裕行の15名で、初参加は竹川さんと宗石さんでした。

参加者全員から寄せられた今回の収穫を報告します。

【今回採集・確認されたクモ】

[凡例]

1. 種ごとに学名・和名・個体数・成長段階・採集者の順に表記した。
2. 雌雄の後に "a" を付したものは成体(adult の略)であることを示す。また、未成熟の雌雄に関しては, "s" (subadult の略), "y" (young の略), あるいは「亜」(亜成体), 「幼」(幼体) 等, 様々な表記が見られるが, ここでは「♀j」「♂j」(ラテン語 juvenis, 英語 juv の略) に統一した。雌雄の判別のつかないより若い段階の個体はすべて "j" と表記した。
3. 特に注記しない場合は採集者自身による同定であることを示す。ただし, 黒田母子と宗石氏の標本は加村氏が同定し, 小池牧子氏の標本は, 同氏の希望によって清水が再同定した。
4. 今回の採集コースのほとんどが山林であるのに対して, 武田尾駅周辺は特に人工的環境に特有な種が多いため, 後者のデータには特に「駅周辺」と注記した。
5. 今回, 目撃情報も若干提供されたが, すべて採集記録ある種に関するものだったので, 記録は割愛した。
6. 宝塚市新記録には学名の末尾に\*印を付けた。また, 阪神地方から初めて報告される種には「阪神地方新記録」, 兵庫県から未記録だった種には「兵庫県新記録」と注記した。ここで, 「阪神地方」とは大阪平野西部の兵庫県側, 具体的には神戸市, 尼崎市, 西宮市, 芦屋市, 伊丹市, 宝塚市, 川西市, 三田市, 猪名川町の8市1町をさす。また, 「新記録」というのはこれまでに出版物で公表されていなかったものをさす。
7. 西川喜朗氏と加村隆英氏は採集会に先立つ5月3日に現地に赴き, コースを下見された。その際の採集記録も両氏から提供されたので, 一緒に報告する。これらのデータには「5/3」と注釈した。
8. 科の配置は八木沼健夫(1990)に準拠し, 学名等はその後の分類学者の報告を採用した。ただし, サラグモ属(広義)には *Linyphia* を用いた。これらの措置は学界の大勢からは外れるようだが, あえてこの体系を採用した理由については, 別の機会に述べるつもりである。

[種名一覧]

(1) ガケジグモ科

1. ヤマトガケジグモ *Titanoeca albofasciata*\*

1♂a (黒田誠).

(2) ウズグモ科

2. マネキグモ *Miagrammopes orientalis*\*

1♂a (加村); 1♀ (竹川); 2♀a (池田); 1♀a (黒田あ); 1♀a (黒田誠);

1♀a (清水).

3. カタハリウズグモ *Octonoba sybotides*\*

1♀j, 1♂j (船曳); 1♀a (西川); 2♀a, 1♀j (池田); 1♀a (黒田誠);

1♀a (清水).

4. ウズグモ *O. varians*\*

[駅周辺] 1♀a (池田).

5. エゾウズグモ *O. yesoensis*\*

1 ♀ j (竹川).

(3) タマゴグモ科

6. ナルトミダニグモ *Ischnothyreus narutomii*\*

1 ♂ a, 2 j (西川). 阪神地方新記録.

(4) エンマグモ科

7. ミヤグモ *Ariadna lateralis*\*

1 ♀ a (清水).

(5) ヒメグモ科

8. ニホンヒメグモ *A. japonica*\*

1 ♀ j (池田).

9. オオヒメグモ *A. tepidariorum*\*

1 ♀ a, 1 ♂ a (竹川); 1 ♂ a (西川); 1 ♀ a (池田); 1 ♀ a (黒田誠);  
[駅周辺] 1 ♀ a (駅周辺. 加村); 1 ♀ a (駅周辺. 田中); 1 ♀ a (池田);  
1 ♀ j (駅周辺. 清水).

10. シロカネイソウロウグモ *Argyrodes bonadea*\*

1 ♀ a, 1 ♂ a (村上); 1 ♀ a, 1 ♀ j (竹川); 2 ♀ a, 1 ♂ a (黒田誠);  
1 ♀ a, 1 ♂ a (宗石);  
[駅周辺] 10 ♀ a, 5 ♂ a (田中); 1 ♀ a (池田); 1 ♀ a, 1 ♂ a (清水).

11. フタオイソウロウグモ *A. fur*\*

1 ♀ a (船曳); 1 ♂ a (竹川). 阪神地方新記録.

12. チリイソウロウグモ *A. kumadai*

1 ♂ j (クサグモの網. 清水).

13. オナガグモ *Ariamnes cylindrogaster*\*

1 ♀ a (小池); 1 ♂ a (池田); 1 ♀ a (黒田あき); 1 ♂ a (黒田誠); 1 ♀ a (宗石).

14. ギボシヒメグモ *Chryso albipes*\*

1 ♀ a (加村); 1 ♀ a (池田).

15. カレハヒメグモ *Enoplognatha abrupta*\*

1 ♀ j (池田); 1 j (宗石).

16. ヒシガタグモ *Episinus affinis*\*

1 ♀ a, 1 ♀ j (池田); 1 ♀ a (黒田あき); 1 ♀ a (宗石).

17. ムラクモヒシガタグモ *E. nubilus*\*

1 ♀ a, 1 ♀ j (池田). 阪神地方新記録.

18. ハラナガヒシガタグモ *Moneta caudifer*\*

1 ♀ a (加村); 3 ♀ a (黒田誠). 阪神地方新記録.

19. バラギヒメグモ *Takayus chikunii*\*

1 ♀ a, 1 ♀ j (竹川); 1 ♀ (西川); 3 ♀ a (黒田誠); 1 ♀ a (清水).

20. ヒロハヒメグモ *T. latifolius*\*

1 ♀ a, 1 ♂ a (池田).



21. スネグロオチバヒメグモ *Stemmops nipponicus*\*

1 ♀ a, 1 ♂ a (西川).

22. カニミジグモ *Trigonobathrys mustelinus*\*

3 ♀ a (池田); 1 ♀ a (黒田誠).

## (6) サラグモ科

23. ハラジロムナキグモ *Diplocephaloides saganus*\*

1 ♀ a (西川). 阪神地方新記録.

24. クスミサラグモ *Linyphia fusca*\*

1 ♀ a (船曳); 2 ♀ a, 1 ♀ j (池田). 阪神地方新記録.

25. ツリサラグモ *L. japonica*\*

1 ♀ a (竹川); 1 ♂ a (池田); [駅周辺] 1 ♀ a (池田). 阪神地方新記録.

26. アシナガサラグモ *L. longipedella*

1 ♂ j (竹川).

27. ムネグロサラグモ *L. nigripectaris*

2 ♀ a (加村); 6 ♀ a (竹川); 1 ♂ a (黒田誠); 1 ♀, 1 ♂ (清水).

28. ヘリジロサラグモ *L. oidedicata*\*

1 ♀ a (西川).

29. ユノハマサラグモ *L. yunohamensis*

1 ♀ j (池田); 2 ♀ a (清水).

30. スソグロサラグモ *Ostearius melanopygius*\*

1 ♀ a (竹川). 兵庫県新記録.

## (7) センショウグモ科

31. ハラビロセンショウグモ *Mimetus japonicus*\*

1 ♀ (池田). 阪神地方新記録. ちなみに, 阪神地方からはこれまでセンショウグモ科の記録は全くなかった.

32. オオセンショウグモ *M. testaceus*\*

1 ♀ a (加村). 阪神地方新記録.

## (8) カラカラグモ科

33. ヤマジグモ *Ogulnius pullus*\*

1 ♀ a (清水). 生垣のカイツカイブキの枝に網を張っていた.

## (9) コガネグモ科

34. ハツリグモ *Acusilas coccineus*1 ♀ a (加村); 1 ♂ a (竹川); 1 ♂ a (西川); 1 ♀ a (池田); 1 ♂ a (黒田誠);  
1 ♀ j (清水).35. ヌサオニグモ *Araneus ejusmodi*\*1 ♀ j, 1 ♂ j (加村); 1 ♂ a (村上); 1 ♀ j (小池); 1 ♀ j, 1 ♂ j (船曳); 2 ♀ j (竹川);  
1 j (西川); 1 ♂ a (池田); 1 ♀ j, 1 ♂ j (黒田あ); 1 ♀ j (黒田誠); 1 ♂ a, 1 ♀ j  
(宗石); 1 ♀ j (清水); [駅周辺] 1 ♀ a (池田).

36. アオオニグモ *A. pentagrammicus*\*  
1 ♀ a, 1 ♂ a (加村); 1 ♀ a (小池); 1 ♀ a (竹川).
37. ハラビロミドリオニグモ *A. viridiventris*\*  
1 ♂ a (田中. 谷川明男氏同定). 兵庫県新記録.
38. コガネグモ *Argiope amoena*\*  
1 ♀ j, 1 ♂ j (池田).
39. チュウガタコガネグモ *Argiope boesenbergi*\*  
1 ♀ j (竹川); 1 ♀ j (池田).
40. ムツボシオニグモ *Araniella yaginumai*\*  
[駅周辺] 1 ♂ j (池田).
41. ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba*\*  
1 ♂ j (西川); 1 ♀ a, 1 ♂ j (池田).
42. ヤマトゴミグモ *C. japonica*\*  
1 ♀ a, 1 ♂ a (池田). 阪神地方新記録.
43. ゴミグモ *C. octotuberculata*\*  
1 ♀ a (池田); 1 ♀ a (黒田あき); 1 ♀ a, 1 ♂ j (宗石); 1 ♀ a (清水);  
[駅周辺] 1 ♂ a (池田).
44. シマゴミグモ *C. omonaga*\*  
1 ♀ a (船曳). 阪神地方新記録.
45. ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla*\*  
1 ♀ j, 1 ♂ j (竹川); 1 ♀ a, 1 ♀ j (池田); 1 ♀ j, 1 ♂ j (黒田誠); 2 ♀ j, 1 ♂ j (宗石);  
1 ♀ a, 1 ♀ j (清水).
46. トガリオニグモ *Eriovixia pseudocentrodes*\*  
1 ♀ a (黒田誠). 阪神地方新記録.
47. ズグロオニグモ *Yaginumia sia*\*  
1 ♀ a (小池); [駅周辺] 1 ♂ a (池田); 1 ♀ j (黒田誠); 1 ♀ a (清水).
- (10) アシナガグモ科
48. オオシロカネグモ *Leucauge magnifica*  
1 ♂ a (船曳); 1 ♂ a, 1 ♀ j (竹川); 1 ♀ a, 2 j (西川); 1 ♀ a, 4 ♀ j (池田);  
1 ♀ a (宗石); [駅周辺] 1 ♀ a, 1 ♂ j (池田).  
宝塚市は本種の模式産地 (para) のひとつとなっている.
49. コシロカネグモ *L. subblanda*  
2 ♀ a, 2 ♂ a (加村. これらのうち, 1 ♀ はオオセンショウグモの獲物になっていた);  
1 ♀ a, 2 ♂ a (西川); 1 ♂ a (黒田あき); 1 ♀ a, 1 ♂ a (黒田誠).
50. キララシロカネグモ *L. subgemmea*\*  
1 ♀ a (池田).
51. ヤサガタアシナガグモ *T. maxillosa*\*  
1 ♀ j (池田); 1 ♂ a (黒田誠); 1 ♀ a (清水).

52. アシナガグモ *T. praedonia*\*

1 ♀ a (村上); 1 ♀ a (竹川); 2 ♀ a, 1 ♂ a, 1 ♀ j, 2j (西川); 1 ♂ a (黒田誠);  
[駅周辺] 1 ♀ a, 1 ♂ a, 1 ♂ j (池田); 1 ♂ a (清水).

53. ウロコアシナガグモ *T. squamata*\*

1j (西川); 1 ♂ j (池田); 1 ♀ a, 1 ♂ a (黒田誠); [駅周辺] 1 ♂ a (清水).

54. エゾアシナガグモ *T. yesoensis*\*

1 ♂ a (船曳). 阪神地方新記録.

## (11) ヒラタグモ科

55. ヒラタグモ *Uroctea compactilis*

1 ♀ j, 1 ♂ j (竹川); 1 ♀ j (池田); 1 ♀ a (黒田あき); 1 ♀ a (清水);  
[駅周辺] 1 ♀ a (池田). トンネルの壁に多数営巣.

## (12) ホウシグモ科

56. ドウシグモ *Asceua japonica*\*

1 ♀ a (黒田誠); 1 ♀ a (清水. 看板の表面を這っていた).

## (13) タナグモ科

57. クサグモ *Agelena limbata*\*

1 ♀ j (竹川); 1j (西川); 1 ♀ j (黒田誠); 1 ♀ j (宗石); [駅周辺] 2 ♀ j (池田).

## (14) キシダグモ科

58. イオウイロハシリグモ *Dolomedes sulfureus*\*

1j (西川).

## (15) コモリグモ科

59. イナダハリゲコモリグモ *Pardosa agraria*\*

1 ♂ a (田中).

60. ウズキコモリグモ *P. astrigera*\*

1 ♀ a (加村); 1 ♀ a (田中).

61. ヤマハリゲコモリグモ *P. brevivulva*

1 ♀ a (田中). 宝塚市内の清荒神は本種の副模式産地のひとつとなっている.

62. イサゴコモリグモ *P. isago*\*

8 ♀ a, 1 ♂ a (田中); [5/3] 1 ♀ a (加村); 1 ♀ a (西川).

63. ハリゲコモリグモ *P. laura*\*

1 ♀ a (田中).

64. キクズキコモリグモ *P. pseudoannulata*\*

1 ♀ a (田中).

65. イモコモリグモ *Pirata piratoides*\*

1 ♀ a (田中).

66. チビコモリグモ *P. procurvus*\*

2 ♀ a, 6 ♂ a (田中); 1 ♂ a (黒田誠). 阪神地方新記録.

67. キバラコモリグモ *P. subpiraticus*\*

1 ♀ a (田中). 阪神地方新記録.

68. ナミコモリグモ *P. yaginumai*\*

9 ♀ a, 3 ♂ a (田中); [5/3] 1 ♀ a, 1 ♂ a (西川). 阪神地方新記録.

(16) フクログモ科

69. ヤサコマチグモ *Chiracanthium unicum*\*

1 ♀ a (黒田誠); 1 ♂ a (宗石). 阪神地方新記録.

(17) ウエムラグモ科

70. イタチグモ *Itatsina praticola*\*

1j (西川).

71. ヤバネウラシマグモ *Phrurolithus pennatus*\*

1 ♂ j (黒田誠). 阪神地方新記録.

(18) ネコグモ科

72. ネコグモ *Trachelas japonicus*\*

1 ♀ a (竹川); 1 ♀ (池田).

(19) シボグモ科

73. シボグモ *Anahita fauna*\*

1 ♀ a (田中); 1 ♀ a (黒田誠); 1 ♀ a (宗石).

(20) ワシグモ科

74. フタホシテオノグモ *Callilepis schuszteri*\*

1 ♀ a (加村).

75. カワラメキリグモ *Gnaphosa alberti*\*

[5/3] 1 ♂ a (加村). 兵庫県新記録.

76. ナミトンビグモ *Sanitubius anatolicus*\*

1 ♂ a, 1 ♀ j (宗石).

77. マエトビケムリグモ *Sernokorba pallidipatellis*\*

1 ♂ a (西川).

78. クロチャケムリグモ *Zelotes asiaticus*\*

1 ♀ a (竹川).

(21) カニグモ科

79. コハナグモ *Diaea subdola* \*

1 ♀, 1 ♂ (池田); 1 ♀ a (黒田誠).

80. アシナガカニグモ *Heriaeus mellottei* \*

1 ♀ j (小池. 5月31日に脱皮して成熟); 1 ♂ a (西川); [駅周辺] 1 ♀ j (池田);

1 ♀ j (黒田誠). 阪神地方新記録.

81. ハナグモ *Misumenops tricuspидatus* \*

1 ♂ (池田); 1 ♀ j (黒田誠).

82. クマダハナグモ *M. kumadai*\*

1 ♀ a (黒田誠). 阪神地方新記録.

83. ニッポンオチバカニグモ *Oxyptila nipponica*\*  
1 ♂ a, 1 ♂ j, 2 j (西川). 兵庫県新記録.
84. ワカバグモ *Oxytate striatipes*\*  
1 ♂ a (村上); 2 ♀ a, 1 ♀ j (池田); 1 ♀ a (黒田あ); 1 ♀ a (黒田誠); 1 ♂ a (宗石);  
1 ♀ a (清水).
85. セマルトラフカニグモ *Tmarus rimosus*  
1 ♀ a (池田).
86. ヤミイロカニグモ *Xysticus croceus*\*  
2 ♂ a (田中); 2 ♀ a (竹川); 1 ♀ a (西川); 1 ♀ (池田); 1 ♀ a (黒田あ);  
2 ♀ a, 1 ♂ a (黒田誠); 2 ♀ a (宗石); 1 ♀ a (清水).
87. カラカニグモ *X. ephippiatus*\*  
1 ♂ a (村上). 阪神地方新記録.
- (22) エビグモ科
88. キンイロエビグモ *Philodromus auricomus*\*  
1 ♀ a (ハラジロ型. 西川).
89. アサヒエビグモ *P. subaureolus*\*  
1 ♀ j (黒田誠).
90. ヤドカリグモ *Thanatus miniaceus*\*  
1 ♂ a (船曳). 阪神地方新記録.
91. シャコグモ *Tibellus tenellus*\*  
1 ♀ a (船曳); 1 ♀ a (田中); 1 ♀ a (竹川); 1 ♀ a (池田); 1 ♀ a (清水).
- (23) ハエトリグモ科
92. ネコハエトリ *Carrhotus xanthogramma*\*  
1 ♂ a (池田).
93. マミジロハエトリ *Evarcha albaria*  
(池田).
94. ウデブトハエトリ *Harmochirus insulanus*\*  
1 ♀ j (池田).
95. ジャバラハエトリ *Helicium yaginumai*\*  
1 ♀ a (竹川).
96. ヨダンハエトリ *Marppisa pulla*\*  
1 ♀ a (村上); 1 ♂ a, 1 j (黒田誠).
97. ヤサアリグモ *Myrmarachne inermichelis*\*  
1 ♀ a, 1 ♂ a (池田); 1 ♂ a (黒田誠).
98. アリグモ *M. japonica*\*  
1 ♀ a (船曳); 1 ♀ a (黒田あき); 1 ♀ a (黒田誠); 1 ♀ a (宗石).
99. チャイロアサヒハエトリ *Phintella abnormis*\*  
1 ♀ j (池田); 1 ♂ a (黒田あき).

100. キアシハエトリ *P. bifurcilinea*\*

1 ♂ a (黒田誠). 阪神地方新記録.

101. メガネアサヒハエトリ *P. linea*\*

1 ♀ a (黒田誠).

102. デーニッツハエトリ *Plexippoides doenitzi*\*

1 ♀ j (池田).

103. ミスジハエトリ *Plexippus setipes*\*

1 ♀ a (池田).

104. ヒメカラスハエトリ *Rhene sp.*\*

2 ♀ a (黒田誠). 阪神地方新記録.

105. アオオビハエトリ *Siler cupreus*\*

1 ♀ a (船曳); 1 ♀ a (西川); 1 ♀ a (黒田あき); 1 ♀ a (黒田誠).

106. アメイロハエトリ *Synagelides agoriformis*\*

1 ♂ a (西川).

1回の採集会で100種を越えたのは私の記憶にありません。武田尾の自然環境が良好であるのと同時に、多数の参加者が多様な方法で調査したためでしょう。以上のうち、96種は宝塚市新記録です。実は、これまでに宝塚市の記録は25種しかありませんでした。今回が始めての本格的な調査といえましょう。この結果、同市全体の記録は121種で、阪神地方では川西市の93種、伊丹市の83種を凌いで阪神地方トップの値となりました。なお、大字玉瀬では初めての採集記録となりますが、近接した大字切畑ではカトウツケオグモが採集されています(本誌26号)。

阪神地方新記録は24種です。これらの中には普通種も多く含まれていることにお気づきと思います。これは、この地域では、宝塚市に限らず、まとまった記録があまり発表されていないという事情を物語っているといえます。なお、兵庫県新記録は、スソグロサラゲモ、ハラビロミドリオニグモ、カワラメキリグモ、ニッポンオチバカニグモの4種でした。

最後になりましたが、データを提供してくださった参加者の皆様と同定に協力してくださった谷川明男氏にお礼を申し上げます。



関西クモ研究会 採集会  
2004年 5月 30日  
兵庫県宝塚市武田尾

## 採集会の感想

高章 浩

僕が自由研究でクモを調べたことを言うと、たいていの人は「雲？」と聞き返してきます。そして僕が「いや、クモの方、クモの標本を作ってる」と決まって言います。クモは身近にいる虫ですが、まだ、あまり多くの人に理解されてはいない虫のようです。

ではなぜ、僕はクモに興味を持つようになったかを簡単に説明します。

僕は学校の自由研究を夏休みの宿題に出されて、何をするか迷ったところ、標本を作ることに決めました。そして、そういうことを知り合いでいちばんよく知っている村上協三さん（僕はおっちゃんと呼んでいるが）に聞いてみたところ、クモなら 20 種類ぐらいは集まると言われたので、クモに決めました。こんなささいなことから始まった僕のクモ人生も採集会に参加したことによって、さらに深まったような気がします。普段はものすごく虫ハカセって感じの村上さんが、採集会では小学校 4 年生にクモの名前を聞いているというような貴重な姿を見ました。上には上がいるのだなあ〜と、しみじみ感じる今日この頃です。

さて、疲れたり、クモを取り逃がしたりしましたが、結果的にすごく楽しい採集会だったので良かったです。どうもありがとうございました。

### 【採集したクモ】

アシナガグモ♀

ヤサガタアシナガグモ♂

ワカバグモ♀

シロカネイソウロウグモ♀

アオオビハエトリグモ♀♂

アリグモ sp2

不明 4

TOPICS

チュウガタコガネグモの網にトカゲ

船曳和代

チュウガタコガネグモの網に17~18cmのトカゲがかかっていたのを目撃したので報告します。

2004年5月14日、兵庫県飾磨郡夢前町山富でのことです。見つけたときトカゲは網の中央に尻尾を上、頭を下にしてまっすぐに吊り下がっていました。相当あばれたようで網の右半分が破れていました。30分ばかり前にここを通った時にはきれいな網があったのでその後かかったようです。トカゲはこちらに背を向けて吊り下げられながらも、首を持ち上げ、目をカッと見開いていました。

カメラを持ってなかったのですが是非記録しておきたいと取りに帰りました。30分ばかりして来てみるとトカゲはまだ網にかかったままでした。逃げようともがいたらしく体の向きが替わり、今度は黄白色の腹部が見えていました。天気のよい日だったので体は乾き、目にもところなしか疲れが見え、どんより曇っているようでした。クモは網の左上に逃げ、中心の方を向いてとまっていました。これをカメラに収めました。(写真)

トカゲはこの状態で死んでしまったのか、いやもうひと暴れして首尾よく逃げられたのか、それともクモが食べたのか。翌日確かめに行きました。クモは何事もなかったように同じところに網を張っていました。周囲には蟻の群がったトカゲ死骸もありませんでした。トカゲは首尾よく逃げたのでしょうか。





## 山形県のクモ類目録

吉田 哉

「吉田哉 2004. クモ綱クモ目, 大津高編, 山形県陸産淡水産動物目録 改訂版: 58-69」より転載した。一般には入手できない目録であるので「くものいと」に掲載させていただくことにした。

〈以下転載〉文献および所検標本により目録を作成した。これまでの記録にあるもののうち目録のみで同定に疑問のあるものは除外したが, Saito (1939) 「On the spiders from Tôhoku」にある種は取り上げた。科の配列および学名は谷川(2000, 2001, 2002) 「日本産クモ類目録および補遺 1, 2」に従った。種の配列はアルファベット順とした。ただし, ヒメグモ科は吉田(2003) 「日本産ヒメグモ科総説」に従った。また, 山形県をタイプ産地とする種に\*を付した (吉田記)。

## Family Atypidae ジグモ科

1. *Atypus karschi* Dönitz ジグモ
  2. *Calommata signata* Karsch ワスレナグモ
- Family Antrodiaetidae カネコトタテグモ科
3. *Antrodiaetus roretzi* (L. Koch) カネコトタテグモ

## Family Ctenizidae トタテグモ科

4. *Latouchia swinhoei typica* (Kishida) キシノウエトタテグモ

## Family Sicariidae イトグモ科

5. *Loxosceles rufescens* (Dufour) イトグモ

## Family Scytodidae ヤマシログモ科

6. *Scytodes thoracica* (Latreille) ユカタヤマシログモ

## Family Leptonetidae マシラグモ科

7. *Leptoneta tofacea* (Yaginuma) ウゼンマシラグモ\*

## Family Telemidae ヤギヌマグモ科

8. *Telema nipponica* (Yaginuma) ヤマトヤギヌマグモ

## Family Pholcidae ユウレイグモ科

9. *Pholcus crypticolens* Bösenberg et Strand ユウレイグモ
10. *Pholcus phalangioides* (Fuesslin) イエユウレイグモ
11. *Spermophora senoculata* (Duges) シモングモ

## Family Segestriidae エンマグモ科

12. *Ariadna lateralis* (Karsch) ミヤグモ

## Family Oonopidae タマゴグモ科

13. *Gamasomorpha cataphracta* Karsch ダニグモ

## Family Mimetidae センショウグモ科

14. *Ero japonica* Bösenberg et Strand センショウグモ
15. *Mimetus japonicus* Uyemura ハラビロセンショウグモ

## Family Oecobiidae チリグモ科

16. *Uroctea compactilis* L. Koch ヒラタグモ

## Family Uloboridae ウズグモ科

17. *Miagrammopes orientalis* Bösenberg et Strand マネキグモ
18. *Octonoba sinensis* (Simon) トウキョウウズグモ
19. *Octonoba sybotides* (Bösenberg et Strand) カタハリウズグモ
20. *Octonoba varians* (Bösenberg et Strand) ウズグモ
21. *Octonoba yesoensis* (S. Saito) エゾウズグモ

## Family Nesticidae ホラヒメグモ科

22. *Nesticella brevipes* (Yaginuma) コホラヒメグモ
23. *Nesticus kuriko* Yaginuma クリコホラヒメグモ\*
24. *Nesticus yamagatensis* Yoshida ヤマガタホラヒメグモ\*

## Family Theridiidae ヒメグモ科

25. *Robertus ogatai* Yoshida オガタモリヒメグモ
26. *Enoplognatha carsis* (Fickert) ヤマトコノハグモ
27. *Enoplognatha abrupta* (Karsch) カレハヒメグモ
28. *Steatoda cingulata* (Thorell) ハンゲツオスナキグモ
29. *Steatoda triangulosa* (Walckenaer) マダラヒメグモ
30. *Phoroncidia altiventris* Yoshida ハラダカツクネグモ
31. *Phoroncidia pilula* (Karsch) ツクネグモ
32. *Episinus affinis* Bösenberg et Strand ヒシガタグモ
33. *Episinus nubilus* Yaginuma ムラクモヒシガタグモ
34. *Episinus kitazawai* Yaginuma シモフリヒシガタグモ

35. *Stemmops nipponicus* Yaginuma スネグロオチバヒメグモ
36. *Moneta caudifer* (Dönitz et Strand) ハラナガヒシガタグモ
37. *Anelosimus crassipes* (Bösenberg et Strand) アシプトヒメグモ
38. *Anelosimus iwawakiensis* Yoshida イワワキアシプトヒメグモ
39. *Theridion pinastri* L. Koch ムネグロヒメグモ
40. *Keijia sterninotata* (Bösenberg et Strand) ムナボシヒメグモ
41. *Paidiscura subpallens* (Bösenberg et Strand) ハイロヒメグモ
42. *Rugathodes nigrolimbatus* (Yaginuma) タカネヒメグモ
43. *Takayus takayensis* (S. Saito) タカユヒメグモ\*  
高湯が蔵王温泉をさすか白布温泉をさすか断定できない。シタイプは失われたので、蔵王温泉産の標本をネオタイプとした。また、本種をタイプ種としてタカユヒメグモ属 *Takayus* Yoshida をつくった。
44. *Takayus chikunii* (Yaginuma) バラギヒメグモ
45. *Takayus latifolius* (Yaginuma) ヒロハヒメグモ
46. *Takayus yunohamensis* (Bösenberg et Strand) ユノハマヒメグモ
47. *Takayus subadultus* (Bösenberg et Strand) コケヒメグモ
48. *Takayus lyricus* (Walckenaer) シモフリヒメグモ
49. *Achaearanea oculiprominentis* (S. Saito) キヨヒメグモ\*
50. *Achaearanea japonica* (Bösenberg et Strand) ニホンヒメグモ
51. *Achaearanea asiatica* (Bösenberg et Strand) キヒメグモ
52. *Achaearanea kompirensis* (Bösenberg et Strand) コンピラヒメグモ
53. *Achaearanea angulithorax* (Bösenberg et Strand) ツリガネヒメグモ
54. *Achaearanea tabulata* Levi オオツリガネヒメグモ
55. *Achaearanea tepidariorum* (C. Koch) オオヒメグモ
56. *Achaearanea simulans* (Thorell) ハモンヒメグモ
57. *Chryso foliata* (L. Koch) ホシミドリヒメグモ
58. *Chryso albipes* (S. Saito) ギボシヒメグモ
59. *Cleosoma octomaculata* (Bösenberg et Strand) ヤホシサヤヒメグモ
60. *Thymoites chikunii* (Yoshida) アカササヒメグモ
61. *Thymoites okumae* (Yoshida) クロササヒメグモ
62. *Argyrodes miniaceus* (Doleschall) アカイソウロウグモ
63. *Argyrodes fur* Bösenberg et Strand フタオイソウロウグモ
64. *Rhompaea sagana* (Dönitz et Strand) ヤリグモ
65. *Ariamnes cylindrogaster* Simon オナガグモ
66. *Dipoena punctisparsa* Yaginuma シモフリミジグモ
67. *Yaginumena castrata* (Bösenberg et Strand) ボカシミジグモ
68. *Yaginumena mutilata* (Bösenberg et Strand) コアカクロミジグモ
69. *Trigonobothrys mustelina* (Simon) カニミジグモ
70. *Trigonobothrys flavomarginata* (Bösenberg et Strand) キベリミジグモ  
Family Theridiosomatidae カラカラグモ科
71. *Ogulnius pullus* Bösenberg et Strand ヤマジグモ
72. *Theridiosoma epeiroides* Bösenberg et Strand カラカラグモ  
Family Anapidae ヨリメグモ科
73. *Conoculus lyugadinus* Komatsu ヨリメグモ  
Family Mysmenidae コツブグモ科
74. *Mysmenella jobi* (Kraus) ナンプコツブグモ  
Family Linyphiidae サラグモ科
75. *Aprifrontalia mascula* (Karsch) コサラグモ
76. *Bathypantes gracilis* (Blackwall) ダイセツテナガグモ
77. *Ceratinella fumifera* S. Saito ケムリハラダカグモ\*
78. *Doenitzius peniculus* Oi デーニッツサラグモ
79. *Erigone prominens* Bösenberg et Strand ノコギリヒザグモ
80. *Herbiphantes cericeus* (S. Saito) キヌキリサラグモ
81. *Hylyphantes graminicola* (Sundevall) クロナンキングモ

82. *Labulla contortipes* (Karsch) アシヨレグモ  
 83. *Leptyphantes concavus* (Oi) クボミケシグモ  
 84. *Neolinyphia angulifera* (Schenkel) ハンモック  
 サラグモ  
 85. *Neolinyphia fusca* (Oi) クスミサラグモ  
 86. *Neolinyphia japonica* (Oi) ツリサラグモ  
 87. *Neriene montata* (Clerck) ヤマジサラグモ  
 88. *Neriene oidendicata* (Helsdingen) ヘリジロサラ  
 グモ  
 89. *Neserigone nigriterminorum* (Oi) ハシグロナン  
 キングモ\*  
 90. *Nipponotusukura spiniger* H. Saito et Ono ザオ  
 ウマジナイケシグモ\*  
 91. *Oedothorax bipunctis* Bösenberg et Strand ヌカ  
 グモ  
 92. *Oreonetides shimizui* (Yaginuma) シミズサラグ  
 モ\* 米沢市の清水大典氏にちなむ名前である。  
 93. *Ostearius melanopygius* (O. Pickard-Cambridge)  
 スソグロサラグモ  
 94. *Prolinyphia emphana* (Walckenaer) タイリクサ  
 ラグモ  
 95. *Prolinyphia limbatinella* (Bösenberg et Strand)  
 フタスジサラグモ  
 96. *Prolinyphia longipedella* (Bösenberg et Strand)  
 アシナガサラグモ  
 97. *Prolinyphia marginella* Oi コシロブチサラグモ  
 98. *Prolinyphia radiata* (Walckenaer) シロブチサラ  
 グモ  
 99. *Strandella pargongensis* Paik コウライサラグモ  
 100. *Strandella quadrimaculata* H. Saito ヨツボシサ  
 ラグモ  
 101. *Tapiopa guttata* Komatsu カナコキグモ  
 102. *Taranucnus nishikii* Yaginuma ニシキサラグモ  
 南陽市の錦三郎氏にちなむ名前である。ただし、タ  
 イプ産地は富士山山麓。  
 103. *Tibioploides monticola* H. Saito et Ono ヤマクロ  
 サラグモ  
 104. *Ummelita angulitubera* (Oi) コトガリアカムネ  
 グモ  
 105. *Ummeliata erigonoides* (Oi) トガリアカムネグ  
 モ\*  
 106. *Ummeliata insecticeps* (Bösenberg et Strand)  
 セスジアカムネグモ  
 107. *Ummeliata osakaensis* (Oi) オオサカアカムネグ  
 モ  
 108. *Dyschiriognatha quadrimaculata* Bösenberg et  
 Strand ヨツボシヒメアシナガグモ  
 109. *Leucauge magnifica* Yaginuma オオシロカネグ  
 モ  
 110. *Leucauge subblanda* Bösenberg et Strand コシ  
 ロカネグモ  
 111. *Leucauge subgemmea* Bösenberg et Strand キ  
 ララシロカネグモ  
 112. *Menosira ornata* Chikuni キンヨウグモ  
 113. *Meta japonica* Tanikawa サンロードヨウグモ  
 114. *Meta melanocruciata* S. Saito ジュウジドヨウグ  
 モ\*  
 115. *Meta reticuloides* Yaginuma ヤマジドヨウグモ  
 116. *Metleucauge kompirensis* (Bösenberg et Strand)  
 コンピラドヨウグモ  
 117. *Metleucauge yaginumai* Tanikawa キタドヨウ  
 グモ  
 118. *Metleucauge yunohamensis* (Bösenberg et  
 Strand) メガネドヨウグモ  
 119. *Nephila clavata* L. Koch ジョロウグモ  
 120. *Pachygnatha clercki* Sundevall アゴブトグモ  
 121. *Pachygnatha rotunda* S. Saito アジナガマルグ  
 モ\*  
 122. *Tetragnatha caudicula* (Karsch) トガリアシナガ  
 グモ  
 123. *Tetragnatha extensa* (Linnaeus) ハラビロアシナ  
 ガグモ  
 124. *Tetragnatha lauta* Yaginuma キヌアシナガグモ  
 125. *Tetragnatha maxillosa* Thorell ヤサガタアシナ  
 ガグモ  
 126. *Tetragnatha pinicola* L. Koch ミドリアシナガ  
 グモ  
 127. *Tetragnatha squamata* Karsch ウロコアシナガ  
 グモ  
 128. *Tetragnatha yesoensis* S. Saito エゾアシナガ  
 グモ  
 Family Araneidae コガネグモ科  
 129. *Acusilas coccineus* Simon ハツリグモ  
 130. *Araneus cornutus* Clerck ナカムラオニグモ  
 131. *Araneus ejusmondi* (Bösenberg et Strand) ヌサ  
 オニグモ  
 132. *Araneus fuscocoloratus* (Bösenberg et Strand)

ヤミイロオニグモ

133. *Araneus ishizawai* Kishida イシサワオニグモ  
 134. *Araneus mitificus* (Simon) ビジョオニグモ  
 135. *Araneus pinguis* (Karsch) アカオニグモ  
 136. *Araneus semilunaris* (Karsch) マルツメオニグモ  
 137. *Araneus uyemurai* Yaginuma ヤマオニグモ  
 138. *Araneus variegatus* Yaginuma ニシキオニグモ  
 139. *Araneus ventricosus* (L. Koch) オニグモ  
 140. *Araniella yaginumai* Tanikawa ムツボシオニグモ  
 141. *Argiope amoena* L. Koch コガネグモ  
 142. *Argiope bruennichii* (Scopoli) ナガコガネグモ  
 143. *Argiope minuta* Karsch コガタコガネグモ  
 144. *Chorizopes nipponicus* Yaginuma ヤマトカナエグモ  
 145. *Cyclosa atrata* Bösenberg et Strand カラスゴミグモ  
 146. *Cyclosa ginnaga* Yaginuma ギンナガゴミグモ  
 147. *Cyclosa octotuberculata* Karsch ゴミグモ  
 148. *Cyclosa omonaga* Tanikawa シマゴミグモ  
 149. *Cyclosa sedeculata* Karsch ヨツデゴミグモ  
 150. *Cyrtarachne inaequalis* Thorell オオトリノフンダマシ  
 151. *Eriophora astridae* (Strand) サガオニグモ  
 152. *Eriophora sachalinensis* (S. Saito) カラフトオニグモ  
 153. *Eriovixia pseudocentrodus* (Bösenberg et Strand) トガリオニグモ  
 154. *Gasteracantha kuhlii* C. Koch トゲグモ  
 155. *Hypsoosinga pygmaea* (Sundevall) ヨツボシシヨウジョウグモ  
 156. *Hypsoosinga sanguinea* (C. Koch) シロスジシヨウジョウグモ  
 157. *Larinia argiopiformis* Bösenberg et Strand コガネグモダマシ  
 158. *Neoscona adianta* (Walckenaer) ドヨウオニグモ  
 159. *Neoscona nautica* (L. Koch) イエオニグモ  
 160. *Neoscona scylla* (Karsch) ヤマシロオニグモ  
 161. *Neoscona scylloides* (Bösenberg et Strand) サツマノミダマシ  
 162. *Neoscona subpullata* (Bösenberg et Strand) ヘリジロオニグモ  
 163. *Pronous minutus* (S. Saito) コオニグモモドキ  
 164. *Singa hamata* (Clerck) テナガオニグモ  
 165. *Yaginumia sia* (Strand) ズグロオニグモ  
 Family Lycosidae コモリグモ科  
 166. *Alopecosa virgata* (Kishida) スジプトコモリグモ  
 \* 1909年にウゼンコモリグモと共に米沢市で記載されたクモで、山形県としては初めての記録となった。  
 167. *Arctosa depectinata* (Bösenberg et Strand) カガリビコモリグモ  
 168. *Arctosa japonica* (Simon) ヒノマルコモリグモ  
 169. *Hygrolycosa umidicola* Tanaka シッチコモリグモ  
 170. *Lycosa ishikariana* (S. Saito) イソコモリグモ  
 171. *Lycosa suzuki* Yaginuma スズキコモリグモ  
 172. *Pardosa astrigera* L. Koch ウツキコモリグモ  
 173. *Pardosa brevivulva* Tanaka ヤマハリゲコモリグモ  
 174. *Pardosa laura* Karsch ハリゲコモリグモ  
 175. *Pardosa lugubris* (Walckenaer) エゾコモリグモ  
 176. *Pardosa pseudoannulata* (Bösenberg et Strand) キクツキコモリグモ  
 177. *Pirata clercki* (Bösenberg et Strand) クラークコモリグモ  
 178. *Pirata piraticus* (Clerck) カイゾクコモリグモ  
 179. *Pirata subpiraticus* (Bösenberg et Strand) キバラコモリグモ  
 180. *Pirata yesoensis* Tanaka アシグロコモリグモ  
 181. *Trochosa joshidana* (Kishida) ウゼンコモリグモ  
 \*  
 182. *Trochosa ruricola* (De Geer) アライトコモリグモ  
 183. *Trochosa terricola* Thorell カラフトコモリグモ  
 184. *Xerolycosa nemoralis* (Westring) モリコモリグモ  
 Family Pisauridae キシダグモ科  
 185. *Dolomedes pallitarsis* Dönitz et Strand スジプトハシリグモ  
 186. *Dolomedes raptor* Bösenberg et Strand アオグロハシリグモ  
 187. *Dolomedes saganus* Bösenberg et Strand スジアカハシリグモ  
 188. *Dolomedes sulfurous* L. Koch イオウイロハシリグモ  
 189. *Pisaura lama* Bösenberg et Strand アズマキシダグモ

- Family Ctenidae シボグモ科  
 190. *Anahita fauna* Karsch シボグモ
- Family Agelenidae タナグモ科  
 191. *Agelena labyrinthica* (Clerck) イナヅマクサグモ  
 192. *Agelena limbata* Thorell クサグモ  
 193. *Agelena opulenta* L. Koch コクサグモ  
 194. *Tegenaria domestica* (Clerck) イエタナグモ
- Family Cybaeidae ナミハグモ科  
 195. *Cybaeus aquilonalis* Yaginuma コナミハグモ  
 196. *Cybaeus nipponicus* (Uyemura) カチドキナミハグモ
- Family Desidae ウシオグモ科  
 197. *Paratheuma shirahamense* (Oi) イソタナグモ
- Family Dictynidae ハグモ科  
 198. *Cicrina japonica* (Simon) コタナグモ  
 199. *Dictyna felis* Bösenberg et Strand ネコハグモ  
 200. *Dictyna foliicola* Bösenberg et Strand ヒナハグモ  
 201. *Lathys humilis* (Blackwall) カレハグモ
- Family Amaurobiidae ガケジグモ科  
 202. *Amaurobius flavidorsalis* Yaginuma セスジガケジグモ  
 203. *Coelotes corasides* (Bösenberg et Strand) ヤマヤチグモ  
 204. *Coelotes erraticus* Nishikawa アキタヤチグモ  
 205. *Coelotes extitialis* L. Koch クロヤチウモ  
 206. *Coelotes hamamurai* Yaginuma フタバヤチグモ  
 207. *Coelotes insidiosus* L. Koch シモフリヤチグモ  
 208. *Coelotes kintaroi* Nishikawa マサカリヤチグモ  
 209. *Coelotes kitazawai* Yaginuma アズマヤチグモ  
 210. *Coelotes luctuosus* L. Koch メガネヤチグモ  
 211. *Coelotes obako* Nishikawa オバコヤチグモ\*
- Family Titanocidae ヤマトガケジグモ科  
 212. *Nurscia albofasciata* Strand ヤマトガケジグモ
- Family Anyphaenidae イツツグモ科  
 213. *Anyphaena ayshides* Yaginuma ナガイツツグモ  
 214. *Anyphaena pugil* Karsch イツツグモ
- Family Liocranidae ウエムラグモ科  
 215. *Phrulithus claripes* (Bösenberg et Strand) イナズマウラシマグモ  
 216. *Phrulithus komurai* Yaginuma コムラウラシマグモ  
 217. *Phrulithus nipponicus* Kishida ウラシマグモ  
 218. *Phrulithus pennnatus* Yaginuma ヤバネウラシマグモ
- Family Clubionidae フクログモ科  
 219. *Cheiracanthium japonicum* Bösenberg et Strand カバキコマチグモ  
 220. *Cheiracanthium lascivum* Karsch ヤマトコマチグモ  
 221. *Cheiracanthium unicum* Bösenberg et Strand ヤサコマチグモ  
 222. *Clubiona corrugata* Bösenberg et Strand コフクログモ  
 223. *Clubiona japonicola* Bösenberg et Strand ハマキフクログモ  
 224. *Clubiona jucunda* (Karsch) ヤバネフクログモ  
 225. *Clubiona kurilensis* Bösenberg et Strand ヒメフクログモ  
 226. *Clubiona lena* Bösenberg et Strand トビイロフクログモ  
 227. *Clubiona maya* Hayashi et Yoshida マヤフクログモ\*  
 228. *Clubiona sakatensis* S. Saito サカタフクログモ\*  
 229. *Clubiona tateyamensis* Hayashi タテヤマフクログモ  
 230. *Clubiona vigil* Karsch ムナアカフクログモ  
 231. *Clubiona yoshidai* Hayashi ヨシダフクログモ\*  
 吉田哉にちなむ名前である。
- Family Corinnidae ネコグモ科  
 232. *Trachelas japonicus* Bösenberg et Strand ネコグモ
- Family Gnaphosidae ワシグモ科  
 233. *Callilepis schuszei* (Herman) フタホシテノオグモ  
 234. *Cladothela unciinsignita* (Bösenberg et Strand) ムナキワシグモ  
 235. *Drassoides serratidens* Schenkel トラフワシグモ  
 236. *Drassyllus sanmenensis* Platnick et Song エビチャヨリメケムリグモ  
 237. *Drassyllus sasakawai* Kamura ヤマヨリメケムリグモ  
 238. *Gnaphosa kompirensis* Bösenberg et Strand メキリグモ  
 239. *Kishidaia albimaculata* (S. Saito) ヨツボシワシグモ

240. *Odontodrassus hondoensis* (S. Saito) ヤマトフトバワシグモ\*
241. *Sernokorba pallidipatellis* (Bösenberg et Strand) マエトビケムリグモ  
Family Zoridae ミヤマシボグモ
242. *Zora spinimana* (Sundevall) シボグモモドキ  
Family Sparassidae アシダカグモ科
243. *Heteropoda venatoria* (Linnaeus) アシダカグモ
244. *Micrommata virescens* (Clerck) ツユグモ
245. *Sinopoda* sp. コアシダカグモの1種  
Family Philodromidae エビグモ科
246. *Philodromus auricomus* L. Koch キンイロエビグモ
247. *Philodromus cespitum* (Walckenaer) シロエビグモ
248. *Philodromus flavidus* S. Saito キエビグモ
249. *Philodromus poecilus* Thorell エビグモの1種
250. *Philodromus spinatarsis* Simon キハダエビグモ
251. *Philodromus subaureolus* Bösenberg et Strand アサヒエビグモ
252. *Thanatus miniaceus* Simon ヤドカリグモ
253. *Tibellus oblongus* (Walckenaer) スジシャコグモ
254. *Tibellus tenellus* (L. Koch) シャコグモ  
Family Thomisidae カニグモ科
255. *Bassaniana decorara* (Karsch) キハダカニグモ
256. *Coriarachne fulvipes* (Karsch) コカニグモ
257. *Diaea subdola* O. Pickard-Cambridge コハナグモ
258. *Heriaeus mellotiei* Simon アシナガカニグモ
259. *Lysiteles coronatus* (Grube) アマギエビスグモ
260. *Misumenops tricuspidatus* (Fabricius) ハナグモ
261. *Oxytate striatipes* L. Koch ワカバグモ
262. *Pistius undulatus* Karsch ガザミグモ
263. *Synema globosum* (Fabricius) フノジグモ
264. *Tmarus piger* (Walckenaer) トラフカニグモ
265. *Tmarus rimosus* Paik セマルトラフカニグモ
266. *Xysticus audax* (Schrank) カニグモ
267. *Xysticus croceus* Fox ヤミイロカニグモ
268. *Xysticus ephippiatus* Simon カラカニグモ
269. *Xysticus hedini* Schenkel クロボシカニグモ
270. *Xysticus saganus* Bösenberg et Strand オオヤミイロカニグモ  
Family Salticidae ハエトリグモ科
271. *Aelurillus festivus* (L. Koch) ヤマジハエトリ
272. *Ballus japonicus* S. Saito クモガタハエトリ\*
273. *Carrhotus xanthogramma* (Latreille) ネコハエトリ
274. *Evarcha albaria* (L. Koch) マミジロハエトリ
275. *Harmochirus pullus* (Bösenberg et Strand) キレワハエトリ
276. *Hasarius adansoni* (Audouin) アダンソンハエトリ
277. *Helicius cylindratus* (Karsch) コジャバラハエトリ
278. *Helicius yaginumai* Bohdanowicz et Prószyński ジャバラハエトリ
279. *Heliophanus aeneus* (Hahn) チビクロハエトリ
280. *Marpissa mileri* (Peckham) オオハエトリ
281. *Marpissa pulla* (Karsch) ヨダンハエトリ
282. *Mendoza canestrinii* (Ninni in Canestrini et Pavesi) オスクロハエトリ
283. *Mendoza elongata* (Karsch) ヤハズハエトリ
284. *Menemerus fulvus* (L. Koch) シラヒゲハエトリ
285. *Myrmarachne inermichelis* Bösenberg et Strand ヤサアリグモ
286. *Myrmarachne japonica* (Karsch) アリグモ
287. *Myrmarachne kuwagata* Yaginuma クワガタアリグモ\*
288. *Phintella abnormis* (Bösenberg et Strand) チャイロアサヒハエトリ
289. *Phintella arenicolor* (Grube) マガネアサヒハエトリ
290. *Phintella bifurcilinea* (Bösenberg et Strand) キアシハエトリ
291. *Phintella castriesiana* (Grube) ワカバネコハエトリ
292. *Phintella linea* (Karsch) メガネアサヒハエトリ
293. *Phintella versicolor* (C. Koch) メスジロハエトリ
294. *Plexippoides annulipedis* (S. Saito) マダラスジハエトリ
295. *Plexippoides doenitzi* (Karsch) デーニッツハエトリ
296. *Plexippus setipes* Karsch ミスジハエトリ
297. *Pseudicius vulpes* (Grube) イナズマハエトリ
298. *Rhene atrata* (Karsch) カラスハエトリ
299. *Siler cupreus* Simon アオオビハエトリ
300. *Yaginumaella striatipes* (Grube) ウススジハエトリ

コモリグモ Lycosidae (その3)  
 - *Tricca* と *Arctosa* 属 -

田中穂積

今回は、上顎後牙提に3~4歯を持つ2属、*Tricca* と *Arctosa* 属について述べてみたい。研究者によっては *Tricca* を *Arctosa* 属に含めたりするが、ここでは独立属として扱っている。

I. *Tricca* 属

本属の特徴として、1. 第1眼列は後曲、2. 第1眼列は第2眼列よりはるかに長い、の2点が挙げられる。現在、日本では、次の2種、*T. japonica* (ヒノマルコモリグモ) と *T. yasudai* (ヤスダコモリグモ) が知られている。

次にこれら2種の区別点について述べる。

## 1. ヒノマルコモリグモ

後牙提に4歯を持つ個体が見られる。分布は日本全土。平地(畑地)から山地にかけて生息。雄第1脚脛節背面に多数の白毛を持つ。雄触肢の胚葉の先端に太短い剛毛は見られない(図2)、また先端に2本の爪を持つ(図2)。雌生殖器(図1)、雄触肢(図2)参照。

## 2. ヤスダコモリグモ

後牙提に3歯を持つ。分布は現在、北海道のみ。湿地(原)で見られる。雄第1脚脛節背面に多数の白毛は見られない。雄触肢の胚葉の先端に多数の太短い剛毛が見られる(図4)、また、先端に爪は見られない(図4)。雌生殖器(図3)、雄触肢(図4)。

II. *Arctosa* 属

本属の特徴として、1. 第1眼列は第2眼列より少し長いものから、わずかに短いものまで見られる。2. 後牙提は3歯、3. 背甲に不規則斑を持つもの、正中部にわずかに明るい縦斑を持つもの、そしてほぼ一様なものが見られる、の3点が挙げられる。

日本で見られる次の9種、1. *A. cinerea* (タイリクミズコモリグモ)、2. *A. depectinata* (カガリビコモリグモ)、3. *A. laminata* (ネッタイコモリグモ)、4. *A. subamylicata* (クロココモリグモ)、5. *A. kawabe* (カワベコモリグモ)、6. *A. daisetsuzana* (ダイセツコモリグモ)、7. *A. fujiii* (フジイコモリグモ)、8. *A. hikosanensis* (ヒコサンコモリグモ)、9. *A. ebicha* (エビチャコモリグモ) の区別点について述べる。

## 1. 背甲に不規則斑の見られる種(上記1から5までの5種)

以下に、これら5種の区別点について述べる。

## ① タイリクミズコモリグモ

体長が他の種に比較してかなり大きい。雌で1.5 cm、雄で1.2 cm近くある。体色は淡黄色。小川や川原の中洲などの砂場に穴を掘って生息。現在、日本では三重県より以北に分布する。雌生殖器(図5)、雄触肢(図6)参照。

## ② カガリビコモリグモとネッタイコモリグモ

両種は、体長や全体の体色など近似するが、カガリビコモリグモは和名の如く、オレンジ色（カガリビ）をなす心班が目立つ。分布は日本全土。ネッタイコモリグモは和名（ネッタイ）のように、分布域はトカラ列島以南である。これら両種の区別点としては、カガリビコモリグモ雌生殖器（図7）、雄触肢（図8）、ネッタイコモリグモ雌生殖器（図9）、雄触肢（図10）を参照。

### ③ クロココモリグモとカワベコモリグモ

両種は、体長や体全体の配色など近似する。また、共に日本全土に広く分布する。区別点として、クロココモリグモは平地から山地にかけての畑地によく見られる。脚に環班が見られる。カワベコモリグモは和名のように、小川や川原の石の間などで見られる。脚に環班が見られない。これら両種の区別点としては、クロココモリグモ雌生殖器（図11）、雄触肢（図12）、カワベコモリグモ雌生殖器（図13）、雄触肢（図14）を参照。

## 2 背甲正中部にわずかに明るい縦班が見られる種（上記の6から8までの3種）

以下に、これら3種の区別点について述べる。

### ① ダイセツコモリグモ

本種には、北海道大雪山より、この和名が付けられている。大雪山系の高地に生息。本種は腹部背面の（銀）白色の心班が顕著。雄触肢先端の2本の爪が外側に開く（図16）。雌生殖器（図15）、雄触肢（図16）参照。

### ② フジイコモリグモとヒコサンコモリグモ

これら2種は、多くの形質で近似する。両種共に、背甲の明るい縦班に1対の黒点が見られる。また、雄触肢の循板の上部に太く長い突起が見られる（図18, 20）。しかし、その上部の突起の大きさや形状によって区別出来る。また、分布において、フジイコモリグモは本州（東北から近畿にかけて）、ヒコサンコモリグモは中国（鳥取県）と九州（福岡県）。これら2種の区別点は、フジイコモリグモ雌生殖器（図17）、雄触肢（図18）、ヒコサンコモリグモ雌生殖器（図19）、雄触肢（図20）、参照。

## 3 背甲は一様の種（上記の9の1種）

### ① エビチャコモリグモ

本種は、和名の通り、体全体一様にエビチャ色（赤褐色）。かなり大形。日本に広く分布し、川原の縁や湿地あるいはその周辺でよく見られる。雌生殖器（図21）、雄触肢（図22）参照。

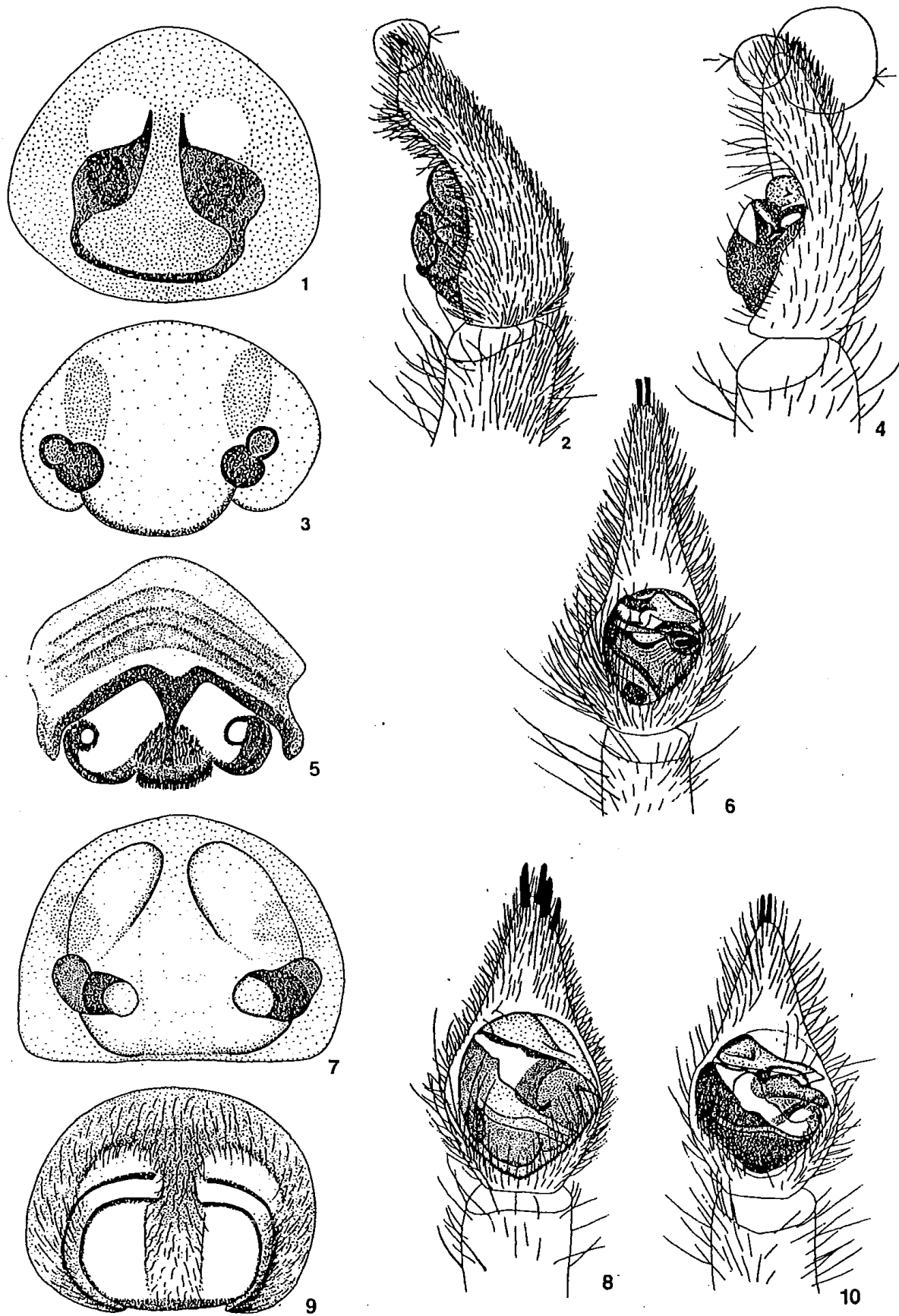
これらの種の詳細な記載については、以下の論文を参照して下さい。

Tanaka,H., 1990. Lycosid Spiders of Japan IV. The Genus *Tricca* Simon. Acta arachnol., 39(1): 21-26.

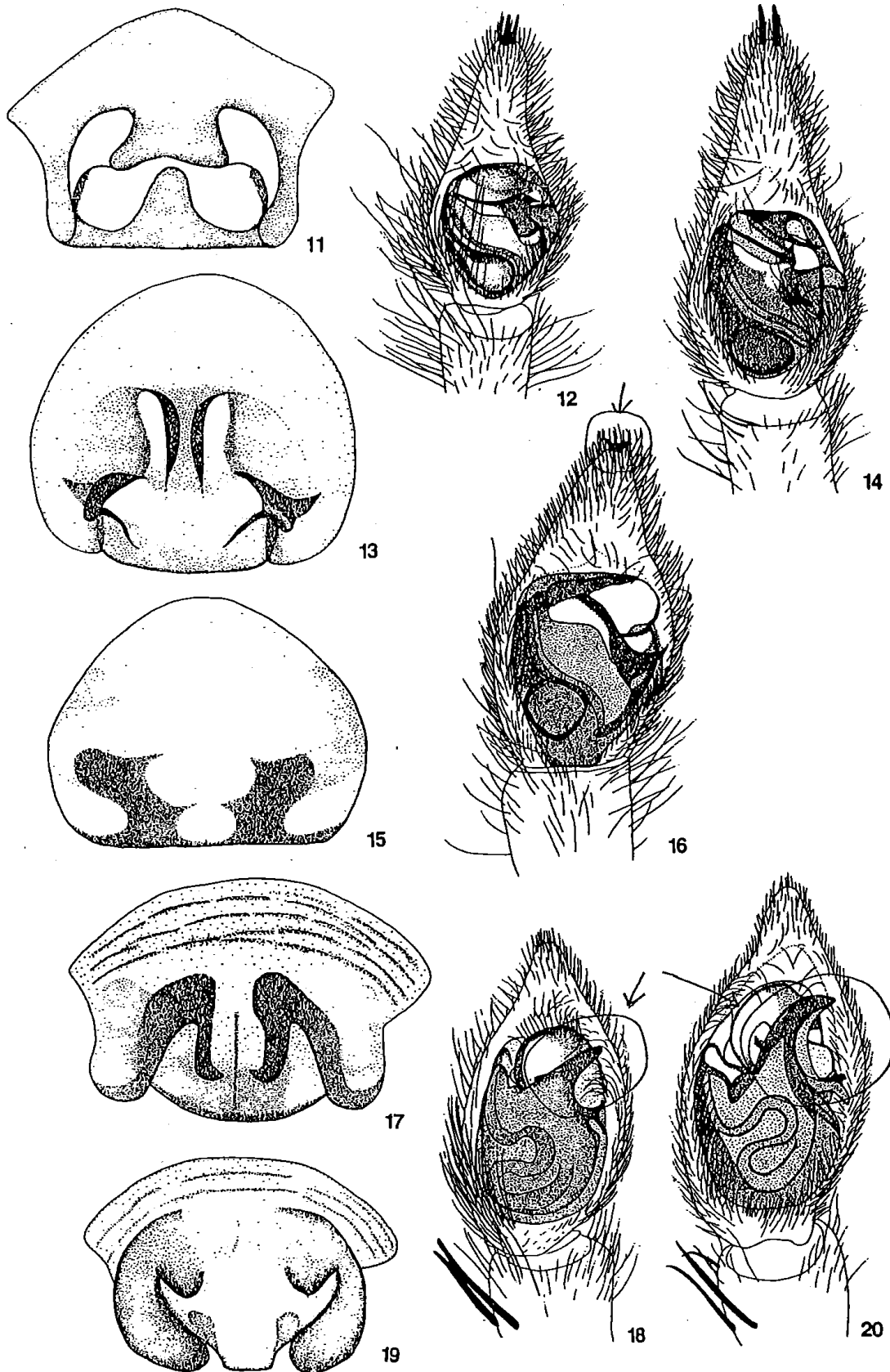
Tanaka,H., 1991. Lycosid Spiders of Japan VII. The Genus *Arctosa* C.L. Koch. Sonoda Women's Coll.Stud., 25: 289-316.

Tanaka,H., 2000. A new species of the genus *Tricca* (Araneae:Lycosidae) from Japan. Acta arachnol., 49(2): 155-157.

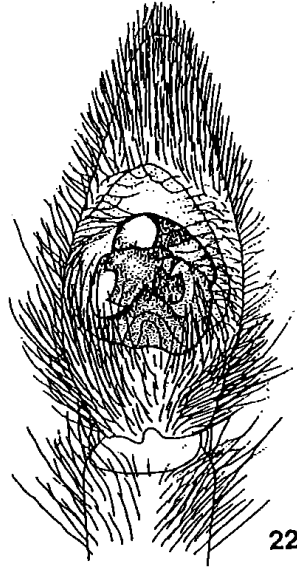
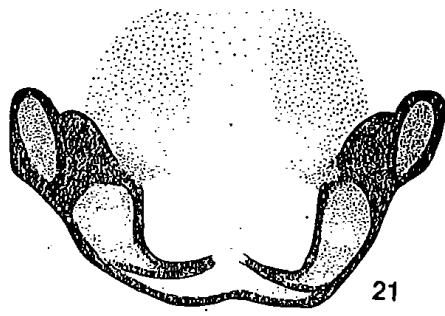




ヒノマルコモリグモ：1、雌生殖器；2、雄触肢；ヤスダコモリグモ：3、雌生殖器；4、雄触肢；タイリクコモリグモ：5、雌生殖器；6、雄触肢；カガリビコモリグモ：7、雌生殖器；8、雄触肢；ネッタイコモリグモ：9、雌生殖器；10、雄触肢



クロココモリグモ：11、雌生殖器；12、雄触肢；カワベコモリグモ：13、雌生殖器；14、雄触肢；  
 ダイセツコモリグモ：15、雌生殖器；16、雄触肢；フジイコモリグモ：17、雌生殖器；18、雄触肢；  
 ヒコサンコモリグモ：19、雌生殖器；20、雄触肢



エビチャコモリグモ：21、雌生殖器；22、雄触肢

**海外の研究トレンド(9) コモリグモの雌はおなじみの雄が好き**

梶元敏也

これまで、鳥や哺乳類のように親が子を保護する脊椎動物では、子供時代に見た親と似た形質を持つ雄を選択するといった性的刷り込み Sexual Imprinting があることは知られていた。しかし、アメリカの Eileen A. Hebets は無脊椎動物ではじめて、コモリグモの一種 *Schizocosa uetzi* に性的刷り込みがあることを示した。

*S. uetzi* の雄は前脚の黒いタイプと茶色いタイプがいる。*S. uetzi* の配偶行動は視覚を中心に行われ、雄は求愛の際、前脚を振り上げる求愛行動をする。以前、雄の求愛行動のビデオ映像を雌に見せる実験で、雄の前脚の色が雌の雄選択に影響しているとはいえないというデータを得ていた。ただし、この実験では雌の成体期だけに着目していたので、亜成体の雌がそれまでにどんな雄に会っていたかはまったく考慮していなかった。野外では雄は雌よりも数週間早く成体になるので、亜成体雌が成体雄と出会う機会は十分ある。そこで、亜成体雌に黒脚または茶脚の成体雄を見せ、成体になってからこれらの雌がどのような雄を好むのかを調べた。

実験方法は以下の通りである。まず、亜成体の雄・雌を野外で採集してきて、それぞれ別々に 6x6x8cm のプラスチック箱に入れ、コオロギを餌として飼育した。雄を成体に育て、前脚の一部を黒または茶色のマニキュアで着色した。これは自然にみられる脚色変異の範囲である。

**実験 1 (亜成体雌と成体雄との出会い実験)**

亜成体雌と脚を着色した雄を 8.73x8.73x11.27cm のプラスチック箱に入れる。時間は 1 日 30 分間で、最終脱皮まで 1 日おきに入れた。ただし、これらの雄の脚の色は同じだが、すべて異なる雄となるようにした。つまり亜成体雌は同じ脚の色の複数の成体雄と 1 日おきに出会うことになる。また、一部の雌については、亜成体のときにまったく雄と出会わないようにした。

**実験 2 (配偶者選択実験)**

配偶者選択の実験は雌が最終脱皮後 11 日～20 日の間のものを用いた。つまり、雌は最後に成体雄と出会ってから少なくとも 11 日間は成体雄と出会っていない。配偶者選択の実験は先の亜成体期の出会い実験と同じプラスチック箱で 1 回 30 分間おこなった。実験は下記のように 4 群となる。

亜成体期に出会った雄の形質 (出会い実験)	配偶者選択実験で出会った雄の形質 (選択実験)
前脚の黒い雄	前脚の黒い雄
前脚の黒い雄	前脚の茶色い雄
前脚の茶色い雄	前脚の黒い雄
前脚の茶色い雄	前脚の茶色い雄

その結果、次の図 1 のように、雌が亜成体期に出会った雄と、成体期の求愛雄が同じ脚の色ならば交配する可能性が高いが、そうでなければ共食いの可能性が高いことがわかった。

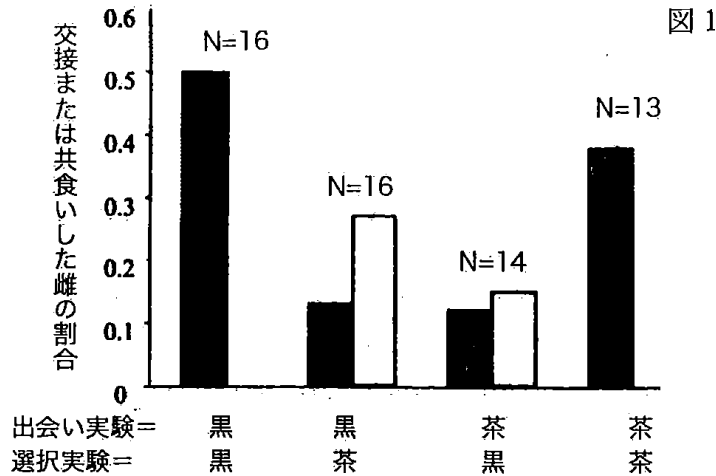


図1 亜成体期に出会った雄の脚の色と成体期に求愛した雄の脚の色が雌の交接または共食いに及ぼす影響。黒棒は交接を、白棒は共食いを示す。

また、亜成体期に特定の形質の雄と出会った回数が多い雌ほど、見慣れない雄を共食いの率が上昇することも示されている。さらに、亜成体期にまったく雄と出会っていない雌の場合、図2のように雄の前脚の色の影響がなくなることがわかる。

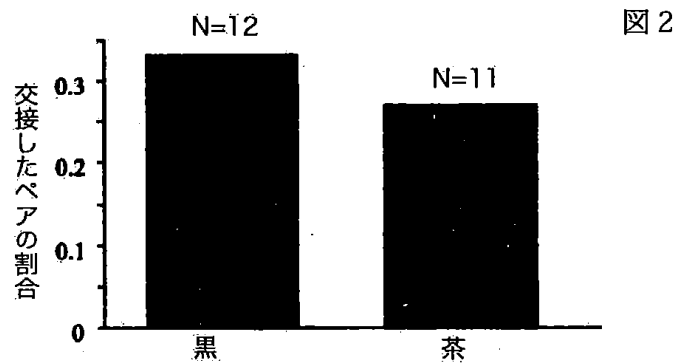


図2 亜成体期にまったく雄と出会わなかった成体雌の交接は雄の脚色の影響を受けない。

これらの結果から、*S. Uetzi* の雌では、亜成体の時期に「性的刷り込み」が行われていることが分かった。節足動物のように亜成体から成体になるときに脱皮をする動物でも「刷り込み」が存在することを示しており、今後の配偶者選択の研究に大きな影響を及ぼすだろう。

#### 参考

Hebets, E.A. (2003) Subadult experience influences adult mate choice in an arthropod: Exposed female wolf spiders prefer males of a familiar phenotype. PNAS 100: 133900-13395.

[www.pnas.org/cgi/doi/10.1073/pnas.2333262100](http://www.pnas.org/cgi/doi/10.1073/pnas.2333262100)

新刊紹介

『ピアノのためのポエジー クモの糸のはしご』

中島はる / 作曲

中島はるさん作曲によるピアノ曲の楽譜集である。中島さんは音楽家で、クモ大好き人間の一人である。今年の8月に豊橋市で開催された日本蜘蛛学会大会の折も、クモをモチーフにした衣装を身につけて参加されていた。

この楽譜集には9曲が収録されている。曲の題名は次のとおり。

「ロンド」「クモの糸のはしご」「マズルカ」「じゃんけんの思い出」「タランテラ」「ゆりかご」「灰色の大鹿」「アラベスク」「花粉の精のワルツ」

それぞれの曲には、小さな詩とイラストがついている。イラストは、この方もまたクモ大好きな画家として有名な小澤實樹さんの手によるものである。楽譜は読めないもので譜面だけではどんな曲なのか分からないという場合でも、この詩とイラストだけで十分に楽しめると思う。

『ピアノのためのポエジー クモの糸のはしご』

作曲 中島はる, イラスト 小澤實樹

1,200円(税別)

2004年4月20日発行

発行所: 株式会社全音楽譜出版社

〒161-0034 東京都新宿区上落合2丁目13番3号

Tel. 営業部 03-3227-6270

URL <http://www.zen-on.co.jp/>

ISBN 4-11-178586-7

なお、この情報は、会員の河井安子さんからご提供いただきました。お礼申し上げます。


(文責: 加村隆英)

## 和歌山県海南市のクモ相撲

池田勇介

7月18日、ぼくは和歌山県海南市ジオトープ孟子で行われたクモ相撲に参加しました。クモ相撲会場のちゅう車場まで行くのに、まよいそうな細い道をとおって、人にききながら着きました。クモ合戦の会場まで行く道がすごく長かったです。まるで山道のような道でした。

会場には人がたくさんきていました。みんなとても大きなコガネグモをもってきていました。その中で一番ぼくのコガネグモがやせていました。足を広げるとみんなのコガネグモよりちょっとだけ大きいように見えました。僕のコガネグモはかご島さんです。この日はお母さんとおばあちゃんと弟と友だちとぼくで参加しました。ぼくは2ひきのクモを出場させました。一ひきのクモは和歌山さんで、もう一ひきがかご島さんです。

いよいよクモ合戦が始まりました。クモ合戦をするところは  こんな形です。ぼくの番がくるまでほかの人のクモがたたかっているのを見ていました。みんなのクモがとてもつよかったので、まけてしまうのではないかと思いました。

そしてぼくの番がきました。和歌山さんのクモでやりました。そのけっか、まけてしまいました。それから少したって2回目のぼくの番がまわってきました。こんどはかご島さんのクモです。こんどはかてるというじしんがありました。けれど、たたかわせてみると、全ぜんたたかう気がありませんでした。だからじゃんけんできめることになりました。ぼくがかちました。そして2回せんになりました。2回せんはぼくのクモがすごくこうげきてきになり、ぼくのあっしょうでした。そして、4回せんたたかって、とうとうぼくがゆうしょうしました。とてもうれしかったです。



関西クモ研究会 2003 年度会計報告

収入:	2002 年度からの繰越金	33,002
	会費過年度分入金	118,000
	会費 2003 年度分入金	50,000
	会費 2003 年度前受け分 (注)	15,000
	バックナンバー売り上げ	10,500
	寄付	2,000

=====  
合計 228,502

(注)「会費 2003 年度前受け分」について。死去のため退会された会員の 2003 年度前納分を返金したため、2002 年度決算報告 (くものいと, No. 34 掲載) に記載された金額と異なっている。

支出:	くものいと No. 34, 35 表紙用紙	3,906
	同上 印刷費	55,000
	同上 郵送用封筒	2,100
	同上 郵送費	32,360
	事務連絡等の郵送費	1,040
	バックナンバー郵送費	2,160
	採集会・例会の案内ハガキ 印刷費	2,220
	同上 郵送費	11,100
	2004 年度への繰越	118,616

=====  
合計 228,502

会費前受け状況

2003 年度末における会費前受け分の合計は、57,000 円である。その内訳は次のとおり。2004 年度分、35,000 円；2005 年度分、14,000 円；2006 年度分、6,000 円；2007 年度分、2,000 円。

寄付拝受

次の方々から寄付を頂戴いたしました。厚くお礼申し上げます。

小川光昭様 (1,000 円), 徳本洋様 (1,000 円)。

上記のとおり、報告します。

会計担当 加村隆英

\*\*\*\*\*



会計監査報告

会計に関する書類を監査した結果, 正確に処理されていることを認めます。

2004年7月10日

会計監査 田中穂積

編集後記

例年なら9月末に発行しているところを、今年は2ヶ月も遅れてしまった。これは編集担当の私の責任であり、皆さんに深くお詫びしなければならない。大学の仕事などが立て込んでいる上に、9月のはじめから首や腕の痛み・痺れが出て、思うように仕事ができないようになってしまった。年のせいかもしれないが、うっとうしい限りである。私がこんな状態だったので、36号の編集はほとんどを榊元智子さんにやっていただいた。彼女には深く感謝している。次号の編集は大学が比較的暇なときなので、何とかできるのではないかと考えている。(吉田)

〈関西クモ研究会〉	会長	山野忠清
	編集	吉田真 赤松史憲
	庶務	加村隆英
	会計	加村隆英
	会計監査	田中穂積
	顧問	西川喜朗

---

くものいと 36号      発行年月日 2004年12月5日  
発行所 関西クモ研究会 (代表 山野忠清)  
住所 〒567-8502 大阪府茨木市西安威 2-1-15  
追手門学院大学 生物学研究室内  
TEL: 0726-41-9550 (加村研)

---